

釜石市観光振興ビジョン (案)

おでんせ かまいし

平成 18 年 4 月現在

岩手県 釜石市

第1章 釜石市観光振興ビジョンの策定にあたって

1 - 1	観光の役割と将来展望	1
1 - 1 - 1	観光の意義	1
	1) 人々にとっての観光の意義	
	2) 地域にとっての観光の意義	
1 - 1 - 2	観光に関する社会情勢の変化	2
	1) 平均寿命の伸長と自由期間の拡大	
	2) 労働時間の短縮と余暇時間の増大	
	3) 価値観の変化	
1 - 1 - 3	観光産業の現状とその影響	2
1 - 1 - 4	今後の観光レクリエーションの見通し	3
	1) 量的な変化	
	2) 質的な変化	
	旅行形態の多様化と目的化	
	周遊型旅行の比重の低下と拠点滞在型旅行の増大	
	定住も見据えた交流機会の創出へ	
1 - 1 - 5	観光をめぐる国や県の施策	6
	1) 観光立国宣言 - ビジット・ジャパン・キャンペーン -	
	2) 北東北三県外客来訪促進計画	
	3) 岩手の観光振興戦略	
1 - 2	岩手県の観光の動態	8
1 - 2 - 1	発地別観光客入込み数等の推移	8
	1) 観光客入込み数及び観光消費額の推移	
	2) 季節別の観光客入込み数	
	3) 観光資源別観光客の入込み数	
	4) 交通機関別観光客入込み数	
1 - 2 - 2	形態別観光の状況	
	1) 外国人観光客の動向	10
	2) 修学旅行者の動向	12
1 - 2 - 3	宿泊施設等の状況	
1 - 2 - 4	観光消費額の状況	

第2章 釜石市の観光の動態

2 - 1	釜石市の観光資源	16
2 - 1 - 1	地理・気象状況	16
2 - 1 - 2	観光資源	16
1)	自然観光資源	
2)	人文観光資源	
3)	観光レクリエーション施設	
4)	まつり、イベント	
5)	スポーツ行事	
2 - 1 - 3	交通アクセスの状況	19
2 - 1 - 4	特産品と味覚	20
2 - 1 - 5	物産展等の開催状況	20
2 - 2	釜石市の観光の動向	22
2 - 2 - 1	観光客入込み特性等	22
1)	観光レクリエーション客の推移	
2)	施設別利用状況	
3)	形態別入込み客数	
4)	観光客の動態	
5)	観光消費額の実態	
2 - 3	釜石市の観光を取り巻く課題	27

第3章 釜石市観光振興ビジョンの立案

3 - 1	上位・関連計画等	28
3 - 1 - 1	上位計画	28
1)	釜石市総合計画	
2)	三陸地方拠点都市地域基本計画	
3 - 1 - 2	関連計画等	29
1)	釜石市エコミュージアム構想	
2)	釜石市景観形成基本方針	
3)	釜石市中心市街地活性化基本計画	
4)	釜石港港湾計画	

3 - 1 - 3	調査報告等	32
1)	釜石市温水脈探査事業委託報告書	
2)	釜石港高度利用検討調査報告書	
3)	釜石地区産業遺産調査報告書	
3 - 2	釜石市における観光振興の方向性	35
	《1. オール釜石で顧客のニーズに対応する》	
	《2. 固有の資源で独自性を発揮する》	
	《3. ホスピタリティを高める》	
	《4. 産業としての観光を確立する》	
3 - 3	釜石市における観光振興の基本理念と目標	36
3 - 3 - 1	観光振興の基本理念	36
3 - 3 - 2	観光振興の三つの目標	36
3 - 3 - 3	目標とする期間	37
3 - 3 - 4	観光振興に向けた五つの指針	37

第4章 観光の振興に向けた五つの戦略

戦略1	<u>人材育成による”おでんせ”の心の醸成</u>	38
戦略2	<u>海と食にこだわった観光の推進</u>	40
戦略3	<u>近隣地域や団体との連携の強化</u>	43
戦略4	<u>迎客環境のブラッシュアップ</u>	45
戦略5	<u>観光関連情報の受発信</u>	48

第5章 観光振興ビジョンを推進するために

5 - 1	住民及び事業者の主導による観光の推進	50
5 - 1 - 1	事業者・市民・行政の責務	50
5 - 2	観光や物産の推進体制の整備	51
5 - 2 - 1	中間組織の組織体制の強化	51
5 - 2 - 2	行政における推進体制	52
	1) 観光協会に対する人的支援	
	2) 全庁的な協力体制	

第6章 部門別行動計画

= 資料編 =

釜石市観光審議会委員名簿	55
ビジョン内グラフの基礎データ	56

第1章 釜石市観光振興ビジョンの策定にあたって

1-1 観光の役割と将来展望

1-1-1 観光の意義

1) 人々にとっての観光の意義

観光は、人生の喜びを求めて行う自由な活動であり、現在の高水準な成熟社会において、幼少期、成人期、青年期から高齢期に至る全てのライフステージにわたって、また、健康な人だけでなく障害のある人にとっても、ゆとりある人間らしい生活と人生の喜びを実現し、表現するための重要な要素である。

子ども達にとっては、自然や歴史、まちの暮らし方を学ぶことによって、常にみずみずしい感性を養い、次代を担うたくましい創造力を身につける喜びとなる。

青年達にとっては、海・山・川が、そして街が、自分達を来訪者として迎えてくれることによって、新たな活力の源泉となる。

家族にとっては、日常生活とは異なる体験をすることによって、お互いの絆をより強固なものとすることができる。

高齢者にとっては、観光によって健康でいきいきとした人生を送る機会を見出し、平穏な心を養うことができる。

外国人にとっては、他国の自然、歴史、文化との接触が新鮮な感動を呼び起こし、自らの生活、ひいては自国の文化や文明を振り返る鏡となる。

2) 地域にとっての観光の意義

観光は、産業と産業、生活と産業を結びつける機能を持っており、観光に関連した産業の発展により、地域社会の中に新たなマネーフローをつくり出す。また、観光は、地域の外から人を呼び込む力を有しているため、1次産業や2次産業の付加価値を高める。

さらに、観光は総合的な空間での体験であることから、まちづくりと表裏一体・不可分なものであり、地域づくりと密接な関わりの中で展開する必要がある。加えて、先人から受け継いだ伝統・文化を守り育てることや、新たな文化を生み出す力となり、歴史的・文化的遺産を人々の目に触れさせることで、認識が深まるとともに保全が進むことにもつながる。

その他にも、科学技術や商品開発、あるいはデザイン、ファッションに至るまで、観光地が発表や実験の場として機能する可能性があるなど、観光の地域産業に対する波及効果は極めて大きいものと考えられる。

1 - 1 - 2 観光に関する社会情勢の変化

1) 平均寿命の伸長と自由期間の拡大

わが国の平均寿命は、大正期において男性 62.6 歳、女性 66.6 歳であったものが、平成 17 年には男性 77.8 歳、女性 84.6 歳になると推定されており、世界の最高水準にある。

こうした平均寿命の伸びに伴い、職業生活から引退した後の期間が長くなり、国民の生涯における自由期間も著しく拡大している。

2) 労働時間の短縮と余暇時間の増大

日本の労働時間は 1,975 時間と推計されており、長期的には短縮傾向にあるが、ドイツ (1,550 時間)、フランス(1,680 時間)、イギリス(1,943 時間)などのヨーロッパ諸国と比較するとまだ長い現状にある。

こうしたことから、欧米並みの 1,800 時間に早期に近づけることが目標となっているが、今後予想される労働力不足とあいまって、余暇時間を確実に増大しなければならない状況となっている。

また、連続休暇については、厚生労働省が行った平成 17 年夏季における連続休暇の実施予定状況調査において、調査回答事業場全体の 90.3%が連続休暇を計画するなど、余暇時間が拡大しつつあることが伺える。

3) 価値観の変化

平成 16 年に総理府が行った「国民生活に関する世論調査」では、生活の向上感について全体の 3 分の 2 が前年と同じようなものと答え、低下していると答えた者 (32.3%) も前回調査時点より 5.5 ポイント減少し、全体的な生活の質のレベル感が上がっている。また、今後の生活においてどのような面に力を入れたいと思うか聞いたところ、「レジャー・余暇生活」を挙げた者の割合が 33.8%と最も高く、以下、「所得・収入」(28.5%)、「資産・貯蓄」(25.1%)、「食生活」(23.1%)、「自己啓発・能力向上」(22.0%)の順となっている。

一方、平成 11 年に行われた「余暇時間の活用と旅行に関する世論調査」では、3 日以上連続した休暇の過ごし方に関して、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌の見聞きをする (31.0%) の回答に次いで、1泊2日以上旅行(22.2%)が占めるとともに、海外も含めた旅行回数と 1 回あたりの日数については、3 割近くの方が回数及び 1 回あたり日数を増やしたいと回答している。

1 - 1 - 3 観光産業の現状とその影響

日本の観光産業は、平成 15 年度は 23.8 兆円の売上規模があると推計されているが、その付加価値は 12.0 兆円で GDP の 2.4% となり、自動車産業などの輸送機械や食料品産業に匹敵するものとなっている。また、観光関連の従事者数は 210 万人で、全産業従事者の 3.2% になり、一般機械、輸送機械や食料品等と比較しても大きなものになっている。一方、観光事業のほかの産業に波及する経済効果は、生産波及効果が 53.9 兆円、付加価値効果が 28.6 兆円と推計され、その雇用効果は 442 万人、税収効果は 4.8 兆円程度となり、その影響は 5~7% 程度になっている。

このように、低迷の続く経済情勢にあって、観光産業は高いウエートを示しているが、WTO（世界観光機構）調査の各国比較で、日本は主要国の中で最も低いとされている。

国際旅行では、日本人海外旅行者（アウトバウンド）はここ数年1,300～1,500万人前後で推移しているが、訪日外国人旅行者（インバウンド）は約500万人で、国際旅行収支は大幅な赤字となっている。

1-1-4 今後の観光レクリエーションの見通し

1) 量的な変化

平成17年版観光白書によれば、国民1人あたり平均宿泊旅行回数はここ数年減少傾向が続いており、平成16年は1.18回と、同12年に比べ0.34回、22.4%減少しており、宿泊数についても、平成12年に2.49泊あったものが同16年には1.92泊と、22.9%減少している。近年の国内旅行は、一般に「安・近・短」を志向していると言われ、旅行回数及び宿泊数の減少がこれを如実に示す結果となっているが、わが国経済が踊り場基調を脱却し上昇に転じていることから、この減少傾向は緩やかに回復するものと期待されている。

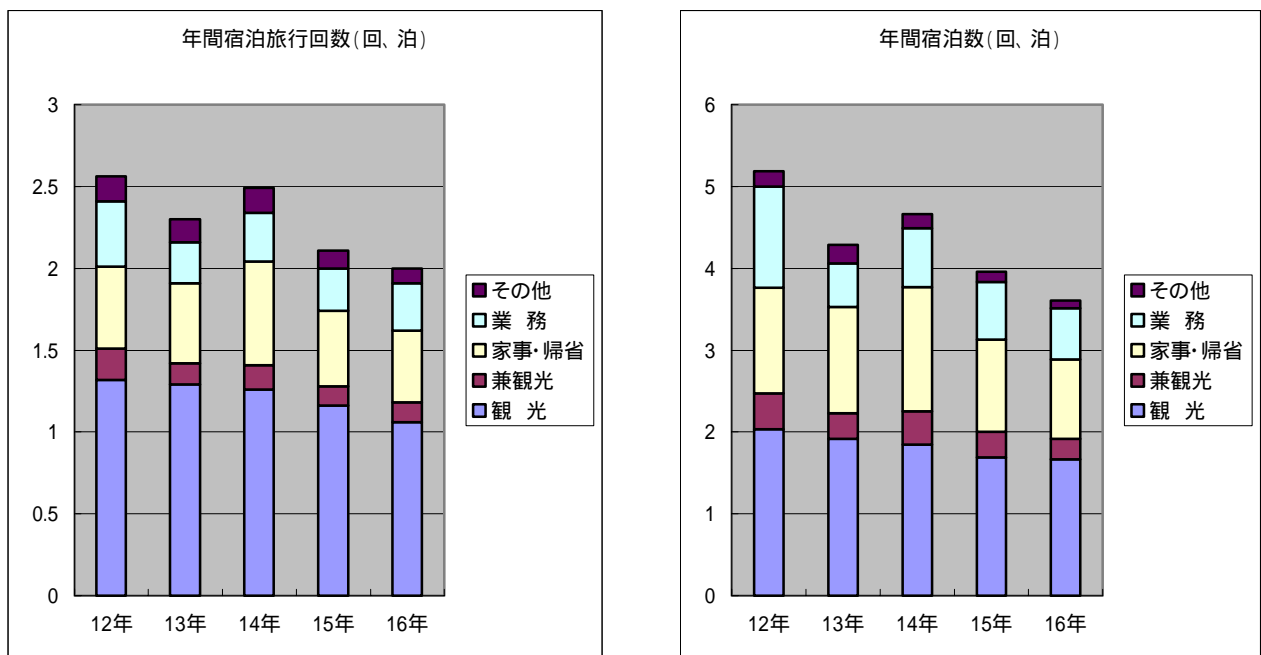


図1-1-1 国民1人あたり平均宿泊旅行回数及び宿泊数（単位：回、泊）

出典：平成17年版観光白書 総務省

注1．国土交通省交通政策局による。

2．()内は前年度比%を示す。

また、平成16年の1世帯当たりの旅行関連消費支出32,815円の内訳は、宿泊費が8万2,376円(前年比5,421円、7.0%増)、交通費が4万9,661円(同2,361円、5.0%増)などこの5年間で最も高い数値を示しており、旅行回数が減少する反面で1回あたりの支出は安定的に推移していることから、より充実した旅行を求める傾向にあると考えられる。

さらに、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の成果もあって、訪日外国人旅行客も増加するものと見られる。

表 1 - 1 - 2 自由時間関連支出の推移（単位：円）

区 分	12年	13年	14年	15年	16年
消費支出	3,805,600	3,704,298	3,673,550	3,631,473	3,650,436
うち自由時間関連支出	885,065	848,066	774,452	748,353	758,650
うち旅行関連支出	146,216	137,799	131,374	124,921	132,815
旅行関連支出の全消費支出に占める割合	3.8%	3.7%	3.6%	3.4%	3.6%
旅行関連支出の自由時間関連支出に占める割合	16.5%	16.2%	17.0%	16.7%	17.5%

出典：平成 17 年版観光白書 総務省

注 1．総務省統計局「家計調査」により作成。

- 2．自由時間関連支出とは、外食、テレビやビデオテープレコーダー等の耐久財、読書等の教養娯楽、スポーツ用品等に支出した額。
- 3．旅行関連支出とは、「宿泊費(宿泊料、パック旅行)」、「交通費(鉄道運賃、航空運賃、有料道路料、他の交通)」、「旅行用かばん」に支出した額。

2) 質的な変化

日本観光協会の出版した「観光の実態と志向」によると、宿泊観光の場合の主な目的は、自然や名所、スポーツ見学、行楽などが全体の 4 分の 1 を占め安定的に推移しているが、慰安旅行やスポーツ・レクリエーションが減少する傾向にある。

これとは反対に、温泉における湯治が 20% 近くまで増加しているのが近年の注目すべき点となっている。そのほか、祭やイベント、避暑・避寒などは、割合としては低いものの少しづつ伸びる傾向にある

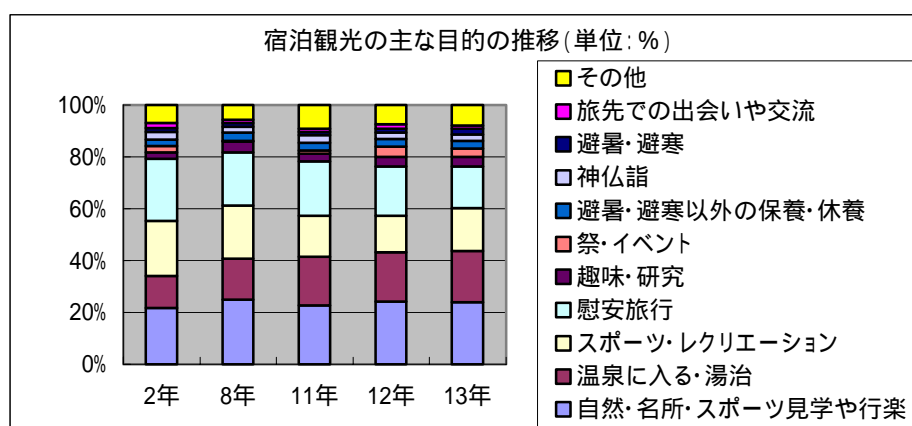


図 1 - 1 - 3 宿泊観光の主な目的の推移（単位：％）

出典：平成 14 年版観光の実態と志向 日本観光協会

宿泊観光旅行の同行者の推移では、知人や友人がやや減少しているほか、職場や学校の団体が従来の半以下になるなど、宿泊観光の目的とともにこれまでの観光に対する志向の変化を垣間見ることができる。反面、家族と同伴するケースが大きく数値を伸ばしているのが特徴で、国民の余暇時間の拡大や価値観の変化などとも密接に関連している。

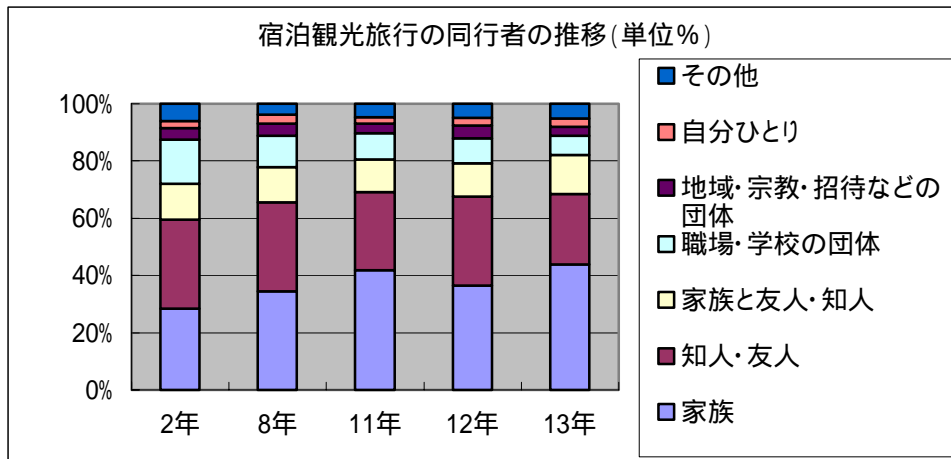


表 1 - 1 - 4 宿泊観光旅行の同行者の推移 (単位: %)

出典: 平成 14 年版観光の実態と志向 日本観光協会

このような状況を考慮しながら、今後の観光レクリエーションの動向を予測すると、以下のようなものが想定される。

旅行形態の多様化と目的化

- ・ 自然景観や名所・旧跡の見学、スポーツ・レクリエーション、温泉保養目的の旅行などに加え、味覚目的の旅行、文化教養型、農山漁村での生活体験や交流を主とする旅行など、目的を絞り、より専門化・高度化した旅行に対する志向の割合が高まる。
- ・ 「 (観光地) へ旅行に行く」というより、「 (活動・目的をしに (観光地) へ行く)」というように、目的が第一義となる。したがって、「旅行、観光」という意識が希薄になり、「移動+行動(活動)」という形で認識されるケースが増える。

周遊型旅行の比重の低下と拠点滞在型旅行の増大

- ・ これまでの周遊型の観光旅行に加えて、週末滞在や比較的長期間 1ヶ所に滞在する旅行が盛んになってくる。したがって、これらの旅行者若しくは滞在者に対しては、快適な環境、施設、多様な体験メニューなど、様々な活動の場の提供が求められる。
- ・ 宿泊施設についても、旅館に代表されるような「1泊2日型」サービスから、「しばしば利用できる」、あるいは「長期にわたって利用可能な」機能が求められる。特に、費用面、食事、それ以外の体験なども含めたサービスのあり方が問われる。
- ・ この点、週末にかけて2~3日滞在できるリゾート地や、質の高い(オート)キャンプ場、コンドミニアムなどに対するニーズも潜在的に高まると想定される。

定住も見据えた交流機会の創出へ

- ・ 団塊世代が一斉にリタイアすることによって旅行形態も多様化し、農山漁村における漁業や、耕作、森林ボランティア、ワーキングホリデー、グリーンツーリズム、各種インストラクターなどを目指した「ターンや」ターン、複数居住なども増える。
- ・ このため、従来の交流人口の拡大を目指した動きのほかにも、週末滞在や長期滞在、地元への定住を視野に入れた観光振興策の展開が必要となってくる。

1 - 1 - 5 観光をめぐる国や県の施策

1) 観光立国宣言 - ビジット・ジャパン・キャンペーン -

平成 15 年 1 月、国では「国際交流の増進とわが国経済の活性化を図るために、自然環境、歴史、文化等観光資源を創造、再発見、整備し、国内外への発信力を強化することにより、観光立国をめざす」ことを宣言した。そして、500 万人にとどまる訪日外国人旅行者（インバウンド）を 2010 年までに 1,000 万人に倍増することを当面の目標とするとともに、政府ではこれ受け、同年 7 月に「観光立国行動計画」を策定したところである。

行動計画では、全国各地が個性を発揮する「一地域一観光」、日本ブランドの海外への発信、観光環境の整備などを推進するとしたが、その中でもとりわけ、インバウンドの振興を図るために「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を積極的に推進し、各種メディアによる PR やポータルサイトの構築、大臣自らによるトップセールスに取り組むこととした。

そして、自治体に対しては、地域の魅力ある資源を発掘・育成し、外国人旅行者にやさしい環境を整え、内外へのプロモーションを積極的に展開することを求めている。

2) 北東北三県外客来訪促進計画

北東北三県には、縄文文化、藤原文化、温泉文化、雪国文化、恐山・遠野・北東北特有の祭り・郷土芸能に代表される民族文化等の人文資源のほかに、山・川・湖・海岸・天然ブナ林などの自然、北東北特有の花、新緑・紅葉・雪といった四季折々自然景観などがある。

青森県、岩手県、秋田県では、これらの資源を、従来の外国人観光客の来訪地域となっている東京圏から関西圏（いわゆるゴールデンルート）とは異なる資源として、日本の中でも他の地域とは異なる「もう一つの日本」と位置付け、外国人観光客が効率的に、安心して、北東北の観光を堪能できるような、テーマ性を持った観光ルート（国際観光テーマルート）を整備し、来訪促進を図ることを目的に、この観光ルートを「北緯 40° の道（Route 40° North Latitude）」とする北東北三県外客来訪促進計画を策定している。

外客促進地域の区域は、青森県が 23 市町村（計画策定当時。以下同）、岩手県が 21 市町村、秋田県で 20 市町村となっており、その中で釜石市は、鉄の歴史館と釜石大観音、尾崎（半島）が主な観光資源として挙げられている。また、この地域における観光ルートとして全 8 ルートを設定しているが、釜石市は「驚きと発見の道」として、恐山から八戸、久慈、宮古を經由し、遠野から八幡平、田沢湖、一関に抜けるルートになっている。

外国人観光客の来訪者数の目標値としては、平成 8 年の三県全体の実績値である 73 千人を、15 年には 16 万人、岩手県は 5 万人を目指すこととし、その目標達成に向けて、案内標

識の整備や善意通訳者の拡大、医療体制や国際交流村などの整備、国際コンベンションの誘致促進に取り組むこととしている。

3) 岩手の観光振興戦略

団体旅行から個人・グループ型旅行への変化や旅行会社を経由しない旅行の増加等、観光スタイルの多様化が進行する中で、一部を除いてこれらの動向に適切に対応できず、顧客満足度の低下を招き、厳しい経営を迫られている観光の実態に鑑み、観光産業の経営力の強化だけでなく、地域の総合力としての顧客獲得力を高め、市場産業としての観光の振興を図るため、岩手県では「岩手の観光振興戦略（仮称）」を検討している。

具体的には、「域外市場産業としての観光の振興」をコンセプトに、地域交流空間の形成、着地からの情報発信、観光を担う人材の育成、マーケティングの強化、観光施設経営基盤の強化及び国際観光の推進に取り組み、沿岸地域についてはその地域特性を踏まえて「自然環境や景観の魅力、特色ある地域資源を活用した滞在・周遊型観光の実現」をめざすこととしている。

プロモーション・・・販売促進のための宣伝

コンベンション・・・博覧会や見本市などの大規模な催し

マーケティング・・・顧客ニーズを的確につかんで製品計画を立て、最も有利な販売経路を選ぶとともに、販売促進努力により、需要の増加と新たな市場開発を図る企業の諸活動。

1 - 2 岩手県の観光の動態

1 - 2 - 1 発地別観光客入込み数等の推移

1) 観光客入込み数及び観光消費額の推移

岩手県における観光客数は、平成 8 年の 41,589 千人をピークに減少し、この数年間は 3,900 万人前後で推移しており、県内客と県外客の比率では、県外客の占める割合が減少の傾向にあるが、最近では 42%程度で落ち着いている。

観光客 1 人あたりの消費額については、平成の初頭までは順調に増えていたが、全国的な景気の低迷なども反映し、今日では明らかに減少しており、県内での消費額の推計にもこの傾向が表れている。

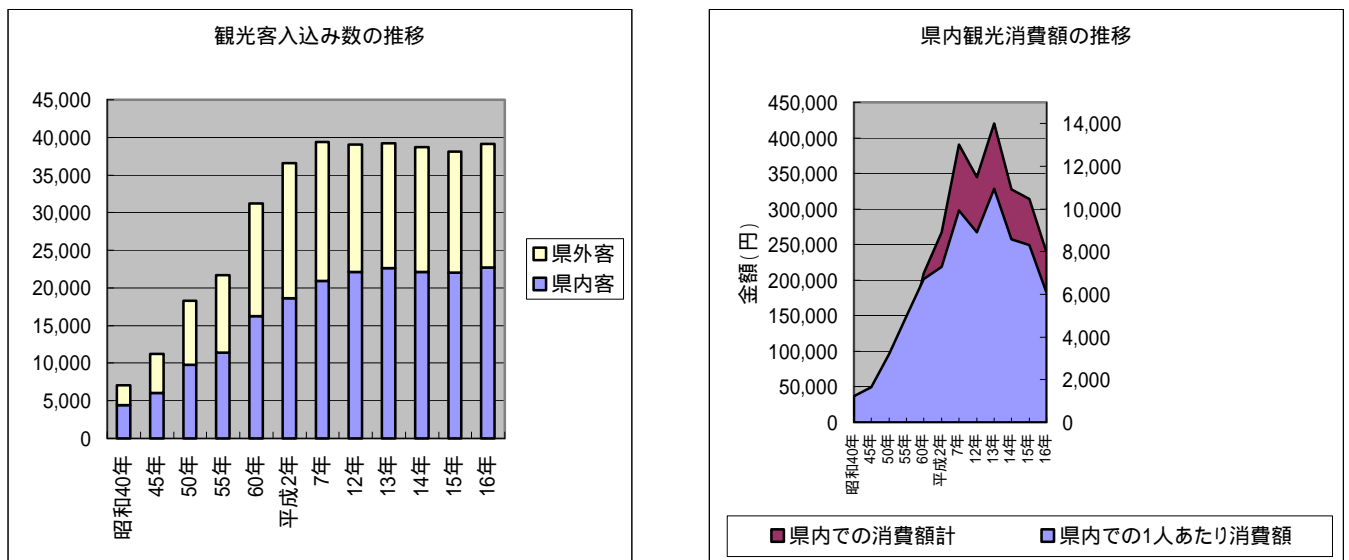


図 1 - 2 - 1 観光客入込み数及び観光消費額推計表

出典：平成 16 年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

2) 季節別の観光客入込み数

月別の観光客数は、学校などの夏休みにあたる 8 月が 6 百万人を超過して最も多く、5 月の連休と 10 月の秋の観光シーズンがこれに続き 4 百万人となっている。また、7 月と 9 月が 3 百万人を超え、12 月の 170 万人が最も少ないほかは、2 百万人台を維持している。

地域別に見ると、スキー場のある盛岡・八幡平地区では、シーズン前後の 11 月から 12 月、3 月と 4 月、6 月が閑散期となり、それ以外は 1 百万人台を維持している。温泉地のある北上川流域では、行楽期にあたる 4 月、5 月、8 月から 10 月に観光客が集中しているのが特徴である。

陸中海岸地区は、海を有することから夏期依存型となっているが、特に、釜石市が含まれる南部地区では、8 月の観光客は 160 万人を数えるが、2 月には 17 万人とおよそ 10 分の 1 まで落ち込むなど、その傾向は顕著である。

表1 - 2 - 2 月別観光地入込み客推計表（単位：千人）

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
盛岡・八幡平	1,079	1,268	966	790	1,160	961	1,123	1,486	1,109	1,383	701	761
北上川流域	978	565	544	1,356	1,445	989	972	1,872	1,411	1,261	757	517
陸中海岸中部	83	74	98	214	522	286	553	857	511	486	231	134
陸中海岸北部	194	182	178	199	520	283	377	597	399	359	272	182
陸中海岸南部	250	172	267	344	520	468	777	1,630	442	514	347	188
釜石市	102	24	30	55	70	63	77	175	67	152	52	33
大船渡市	33	30	36	86	138	150	208	228	100	51	42	31
陸前高田市	33	22	31	46	60	73	263	844	49	63	67	28
住田町	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	0	0
遠野市	58	67	135	116	196	135	155	269	173	199	116	67
宮守村	19	23	30	32	45	37	40	44	39	37	31	22
大槌町	5	6	5	9	10	10	33	67	13	12	39	7
計	2,584	2,261	2,053	2,903	4,167	2,987	3,802	6,442	3,872	4,003	2,308	1,782

出典：平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

3) 観光資源別観光客の入込み数

観光資源別の観光客数では、自然系が最も多く1,540万人となっており、以下、人文系、休憩展望施設、野外活動施設、展示見学教育施設の順となっている。内訳では、盛岡・八幡平地区は温泉やスキー客が多く、北上川流域地区でも温泉のほか、祭事、神社が多いなど、それぞれの地域の特色を表している。

陸中海岸でも自然系が多く、北部地区では温泉が、南部地区では休憩展望施設、海水浴、祭事なども多いが、遠野市は、町並みや展示教育施設の割合の高い所に他との違いがある。

表1 - 2 - 3 観光資源別入込み客推計表（単位：千人）

区 分	自然系観光資源		人文系観光資源				展示見 学教育 施設	野外活動施設			休憩 展望 施設
		(温泉)		(神社)	(町並)	(業祭 事)			(スキ ー)	(海水 浴)	
盛岡・八幡平	5,023	3,042	2,021	353	518	1,057	1,261	3,483	1,065		999
北上川流域	4,915	3,552	5,155	2,014	79	2,564	878	855	191		865
陸中海岸中部	2,774	5	325	58		260	56	401		99	523
陸中海岸北部	1,101	638	1,169	91	204	424	857	292	105	48	323
陸中海岸南部	1,629	205	893	142	182	542	650	956	17	635	1,791
釜石市	454		281	118		164	21	144		79	0
大船渡市	832	155	45			45	6	27		12	221
陸前高田市	164	50	141	6		134	370	690		468	215
住田町	8										
遠野市	15		383	18	182	183	244	19	17		1,025
宮守村	18		43			16	9				330
大槌町	138							76		76	0
計	15,442	7,442	9,563	2,658	983	4,847	3,702	5,987	1,378	782	4,501

出典：平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

4) 交通機関別観光客入込み数

利用交通機関の割合では、自家用車が圧倒的に多く、次いで定路線交通機関、貸切バスの順となっており、広い県土を巡るには自家用車の利用が不可欠であることを示している。盛岡・八幡平地区や北上川流域地区については、沿岸部よりは路線交通が発達していることからこの利用が見られ、沿岸部は貸切バスの利用が多く、内陸部との道路交通網の違いを反映している。また、陸中海岸南部においても、遠野市については、定路線交通と貸切バス、自家用車の利用が比較的平均している。

宿泊施設別では、ホテルや旅館の利用割合が高いほか、盛岡・八幡平地区ではペンションや公共の宿泊施設の利用が他地域と比較して多い。社会教育施設の利用も僅かに見受けられ、陸中海岸南部では、陸前高田市の野外活動センターなどがこれにあたる施設である。

表1 - 2 - 4 利用交通別宿泊別入込み客推計表(単位:千人)

区分	利用交通機関				宿泊施設					
	定路線交通機関	貸切バス	自家用車	その他	ホテル・旅館	民宿・ペンション	ユース・ホテル	社会教育施設	公共宿泊施設	キャンプ場
盛岡・八幡平	3,306	1,422	7,867	192	1,705	261	2	66	211	14
北上川流域	1,175	1,472	9,304	717	1,449	41	2	32	96	12
陸中海岸中部	378	828	2,784	58	375	58	3	27	29	15
陸中海岸北部	380	298	2,969	95	169	2			47	8
陸中海岸南部	852	1,012	3,710	345	410	114	7	37	35	27
釜石市	94	101	663	42	98	4				2
大船渡市	66	130	925	10	191	72			32	10
陸前高田市	233		1,053	293	27	9	1	37		13
住田町	2		7							
遠野市	419	670	596		50	11	6			
宮守村	2	66	332						3	0
大槌町	36	45	134		44	18				2
計	6,091	5,032	26,634	1,407	4,108	476	14	162	418	76

出典:平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

1 - 2 - 2 形態別観光の状況

1) 外国人観光客の動向

岩手県では、花巻空港の拡張などを契機に、外国人観光客の誘致にも力を入れている。外国人観光客の入込み数の推計では、市別では花巻市が圧倒的に多いが、これは同市が温泉や宮澤賢治などを積極的に利用して誘客に努めているからである。

その他、県都盛岡市に続いて釜石市が入っているが、釜石市及び周辺地区には、海洋に関する研究機関が立地し、また、水産加工における中国人研究生の受け入れなどに取り組んでいることにも起因する。

また、国別では、空路の関係もあって台湾が51千人と最も多く、以下、香港の9千人、韓国の3千人、アメリカの3千人、中国の2千人の順序となり、アジアが主体となっている。その他の地区では、ドイツの5百人、旧ソ連とイギリスの4百人などと続いている。

表1 - 2 - 5 国別外国人観光客入込み推計表(単位:人)

区分	花巻市	盛岡市	釜石市	北上市	水沢市	江刺市	一関市	大船渡市	陸前高田市	遠野市	宮古市	久慈市	二戸市
北 ア メ リ カ	178	1,398	14		86		102			51	13		
	10	80			1		4			2	1		
南 米		6			1		6						
		85	48				35			1			
イ タ リ ヤ		154	1		3		2			13	1		
	6	97	4							9	3		
ヨ ー ロ ッ パ		333			63		16			1	15		
		122					1						
ア フ リ カ		23			16						2		
オ シ ア		34			2					2	12		
オ セ ア		25	2				4						
北 米	56	302	55		9		33				2		
南 米	8	313	38		4	60	56			16	5		
中 国	555	758	14		21		75						
	13,471	1,084			49		39			49	32		
台 湾	855	631	9				17	374		5			
香 港	355	279	5		21		82			4	12		
韓 国		43	205				26						
フィ リ ピ ン	18	25	177										
タイ		57	259		1		2						
インド ネ シア		22					8				1		
マ レー シア		15											
インド	2	125	207		2	259	34			14			
そ の 他	4	115	16		2		4				7		
オ ス ト ラ リ ア		149	198				2				2		
そ の 他		71	24										
ア フ リ カ													
不明	12	282	197				14	131		4	2		
計	15,530	6,628	1,473	0	281	319	562	505	0	171	110	0	0

出典:平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

これら外国人観光客を月ごとに見てみると、10～12月の本県観光シーズンの最盛期が3万人と最も多く、4～6月、7～9月の観光客は18千人前後と安定しており、1～3月の12千人の順番となっている。

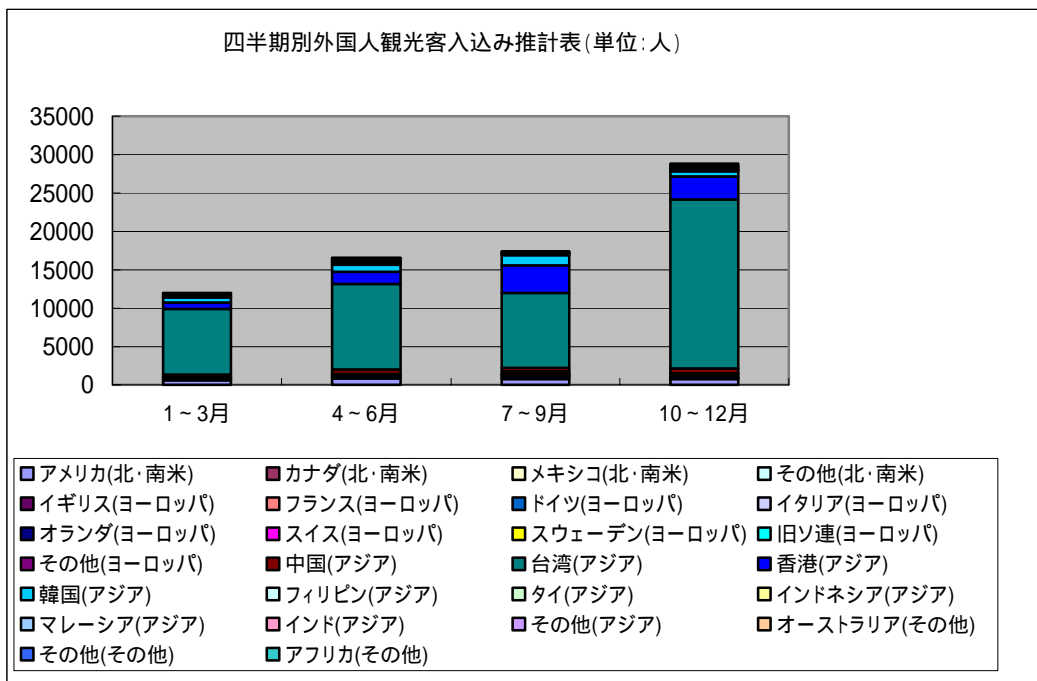


図1 - 2 - 6 四半期別外国人観光客入込み推計表(単位:人)

出典:平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

2) 修学旅行客の動向

修学旅行客については、発地別では、中学校は北海道と東北が伸びる反面、関東圏が大きく減少している。高校では、中部及び近畿方面が増加し、関東圏が減少している。関東圏の中でも、中学校については千葉県が増減が激しく、東京都が減少している一方、高校では東京都が増加し神奈川県が減少するなど、それぞれにおいて大きく異なっているのが現状である。また、高校では、関西の中でも大阪府が大きく数字を伸ばしている。

一般的に、関東圏の修学旅行は関西方面に向いているとのことであることから、体験教育旅行が増加している中であって、如何にして体験メニューを取り揃え、北海道や関西、中部、近畿方面からの修学旅行生を確保しつつ、これら多様なニーズに応じて行くかが、今後の修学旅行客誘致の大きなカギを握ると思われる。

表1 - 2 - 7 着地別修学旅行入込み数の推移（単位：上段校数、下段人）

区 分	中 学 校				高 校			
	平成14年	平成15年	平成16年	割 合	平成14年	平成15年	平成16年	割 合
北海道	968	989	1,000	61.8	2	10	3	1.3
	74,756	67,242	69,775	53.4	262	1,114	229	0.7
東北	278	288	300	18.5	70	58	40	17.8
	15,392	15,730	17,409	13.3	7,504	5,481	4,487	13.9
宮城県	192	166	172	10.6	29	17	8	3.6
	11,035	9,847	10,553	8.1	2,581	1,330	446	1.4
関東	301	334	280	17.3	62	71	83	36.9
	40,440	42,354	37,823	29.0	14,965	10,103	12,354	38.3
埼玉県	3	3	4	0.2	12	3	3	1.3
	351	664	245	0.2	3,832	679	496	1.5
千葉県	16	31	24	1.5	19	20	17	7.6
	1,915	4,367	2,457	1.9	4,970	4,171	4,283	13.3
東京都	205	211	171	10.6	4	32	41	18.2
	28,539	27,661	24,771	19.0	509	3,647	4,422	13.7
神奈川県	60	73	71	4.4	27	8	15	6.7
	8,330	8,825	9,388	7.2	5,655	1,336	2,939	9.1
中部	0	2	1	0.1	18	17	11	4.9
	0	70	48	0.0	777	1,070	1,199	3.7
愛知県	0	0	1	0.1	2	0	0	0.0
	0	0	48	0.0	126	0	0	0.0
近畿	23	31	27	1.7	50	48	80	35.6
	3,805	4,382	5,040	3.9	8,235	7,212	13,427	41.6
大阪府	17	23	16	1.0	23	22	46	20.4
	3,099	3,093	2,983	2.3	3,520	2,661	8,383	26.0
兵庫県	4	5	4	0.2	22	23	27	12.0
	573	726	506	0.4	3,896	4,127	4,544	14.1
中国	3	8	7	0.4	3	2	3	1.3
	268	517	510	0.4	369	84	285	0.9
四国	1	1	0	0.0	1	0	3	1.3
	152	147	0	0.0	46	0	84	0.3
九州	3	0	1	0.1	6	3	2	0.9
	265	0	13	0.0	591	520	205	0.6
沖縄	1	1	2	0.1	0	0	0	0.0
	17	17	23	0.0	0	0	0	0.0
不明	0	3	0	0.0	0	0	0	0.0
	0	98	0	0.0	0	0	0	0.0
計	1,578	1,657	1,618	100.0	212	209	225	100.0
	135,095	130,557	130,641	100.0	32,749	25,584	32,270	100.0

出典：平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

修学旅行生の経年別変化では、平成8年に2,483校、31万人の誘客があったものの減少傾向が続き、16年には18万人と6割程度まで落ち込んでいる。中学校及び高校の着地別では、中学校では13万人台、高校では3万人台とここ数年安定した推移となっている。

表1-2-8 修学旅行入込み数の推移(単位:校、人)

区分	平成8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
校数	2,483	2,381	2,030	2,005	2,155	2,140	2,237	2,307	2,222
生徒数	316,636	284,355	214,365	209,358	210,295	191,766	189,953	176,674	183,024
指数	100.0	89.8	67.7	66.1	66.4	60.6	59.0	55.8	57.8

出典:平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

注1.指数は、平成8年を100とした場合の生徒数の推移を示したものである。

1-2-3 宿泊施設等の状況

県内の宿泊施設の収容数は約8万人で、その大半が盛岡・八幡平地区と北上川流域地区に集中し、それぞれ34千人、25千人となっているが、盛岡・八幡平地区はビジネス客を対象としたホテルが多いことから、全体として和室と洋室が半々であるのに対して、北上川流域地区では、温泉旅館の割合が高いことから、全体の4分の3程度を和室が占めている。

陸中海岸南部地区においては、旅館の占める割合が圧倒的に多いことから、全体でも和室が中心となっている。

表1-2-9 宿泊施設別入込み客推計表(単位:人)

区分	ホテル		旅館		簡易宿所		合計		
	和室	洋室	和室	洋室	和室	洋室	和室	洋室	計
盛岡・八幡平	874	11,184	14,714	3,719	1,633	1,716	17,221	16,619	33,840
北上川流域	487	3,269	17,289	1,334	1,265	947	19,041	5,550	24,591
陸中海岸中部	7	274	6,067	1,017	1,246	131	7,320	1,422	8,742
陸中海岸北部	116	411	3,256	544	415	272	3,787	1,227	5,014
陸中海岸南部	238	628	4,327	260	1,477	749	6,042	1,637	7,679
釜石市	30	300	1,620		161	141	1,811	441	2,252
大船渡市	42	79	1,101	227	590	58	1,733	364	2,097
陸前高田市	110	21	511	6	281	396	902	423	1,325
住田町	14	10	78	3			92	13	105
遠野市	42	218	408	14	237	94	687	326	1,013
宮守村			36	10	7	60	43	70	113
大槌町			573		201		774		774
計	1,722	15,766	45,653	6,874	6,036	3,815	53,411	26,455	79,866

出典:平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

1-2-4 観光消費額の状況

県内の主要な観光地における1人1日あたりの観光消費額を見ると、日帰客で最も消費の多いのが花巻温泉で、以下、盛岡市、宮澤賢治記念館、釜石市と続き、最も少ないのが金田一温泉となっている。盛岡市や花巻温泉ではお土産購入の割合が高く、宮澤賢治記

念館と釜石市では、飲食やお土産品の購入費用がほぼ均一でバランス良く消費されている。

宿泊においては、釜石市が12,628円と最も高く、花巻温泉、須川温泉、碓石海岸、小岩井農場と続き、いずれも宿泊費用が大きなウエートを占めているほか、釜石市の場合は、比較のお土産品の購入費用が多いのが特徴的である。

表1-2-10 主な観光地における1人1日あたり観光消費額(単位:円)

区 分		宿泊	食事	土産	その他	総消費額
盛岡市街	日帰客	-	1,431	6,207	180	7,818
	宿泊客	4,671	1,913	1,765	410	8,759
小岩井農場	日帰客	-	1,077	1,513	686	3,276
	宿泊客	6,057	1,909	1,786	673	10,425
八幡平	日帰客	-	1,931	1,375	36	3,342
	宿泊客	6,261	2,059	948	235	9,503
花巻温泉	日帰客	-	0	5,000	7,500	12,500
	宿泊客	7,535	1,333	1,774	372	11,014
宮澤賢治記念館	日帰客	-	2,093	2,849	1,190	6,132
	宿泊客	6,193	1,598	1,528	670	9,989
平泉	日帰客	-	1,504	1,963	1,233	4,700
	宿泊客	5,710	1,440	1,469	1,326	9,945
碓石海岸	日帰客	-	1,585	806	1,776	4,167
	宿泊客	3,504	1,682	1,300	3,961	10,447
高田松原	日帰客	-	2,232	409	539	3,180
	宿泊客	2,195	1,509	732	121	4,557
遠野盆地	日帰客	-	1,463	1,726	1,000	4,189
	宿泊客	4,950	1,466	1,795	739	8,950
釜石市	日帰客	-	2,880	2,250	1,000	6,130
	宿泊客	6,770	1,901	2,764	1,193	12,628
浄土ヶ浜	日帰客	-	1,516	713	197	2,426
	宿泊客	3,826	1,777	1,141	312	7,056
久慈市街	日帰客	-	1,128	1,095	1,567	3,790
	宿泊客	3,097	1,343	1,033	467	5,940

出典：平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

第2章 釜石市の観光の動態

2-1 釜石市の観光資源

2-1-1 地理・気象状況

釜石市は、陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置し、東部はリアス式海岸、西部は標高 800～1,300mの山地となっている。市域の大部分は傾斜地で、低平地は甲子川や鵜住居川沿いに僅かに見られ、河川は、いずれも市内の北上高地に端を發し、西から東へ流下している。

気象は、平均気温は 11 度程度と冬期でも比較的温暖な海洋性の気象を示しており、降水量と日照時間は多いものの積雪は少なく、内陸部と比較して過ごしやすいと言われている。

表 2 - 1 - 1 釜石市の気象

区 分	11年	12年	13年	14年	15年
最高気温 ()	35.6	34.9	33.3	35.2	33.0
最低気温 ()	- 5.9	- 8.3	- 9.9	- 6.6	- 7.8
平均気温 ()	12.0	11.6	10.8	11.4	11.0
平均湿度 (%)	71.5	71.5	69.7	70.4	75.1
合計日照時間 (h)	1,776.5	1,630.3	1,695.6	1,683.3	1,350.0
降水量 (mm)	2,252	1,881	1,334	1,977	1,705
最深積雪 (cm)	26	16	40	32	35.5

出典：平成 15 年版釜石市統計書 釜石市

2-1-2 観光資源

1) 自然観光資源

当市は、東に陸中海岸国立公園、北に和山湿原自然保護地域、南は五葉山県立自然公園に囲まれるなど豊かな自然環境の中にあり、以下のような自然観光資源がある。

表 2 - 1 - 2 釜石市の主な自然観光資源

区 分	名 称
山岳	五葉山、片葉山
高原	和山高原、櫛ノ木平
峠	仙人峠、笛吹峠
湿原	和山湿原
ダム	日向ダム
滝	不動の滝、千丈ヶ滝、白糸の滝・布引の滝
溪流	甲子川、鵜住居川、片岸川、熊野川
海岸	根浜海岸、水海海岸、荒川海岸、千畳敷、青出浜
岬	尾崎半島、箱崎半島、馬田岬、鎌崎
島	三貫島
植物	五葉山のシャクナゲ群落、和山高原のミズバショウ群落、薬師山と本郷の桜

資料：釜石市エコミュージアム構想報告書等

2) 人文観光資源

釜石市の文学・文化的資源や史跡、寺社、仏閣などの歴史的資源としては、釜石大観音や橋野高炉跡、義経北行伝説コースなどが一般的に知られているが、碑や像、鉄の歴史や百姓一揆にまつわる文化財、巨木などの自然環境資源なども豊富で、あまり知られていないものも含めると次のようなものがある。

表2 - 1 - 3 釜石市の主な人文観光資源

区 分	名 称
寺社・仏閣	石心禅寺、尾崎神社、釜石大観音、天照御祖神社、林宗寺
碑、像、モニュメント	日中永遠平和の像、渚の像、平和の女神像、大島高任像、さけの彫刻、長谷川時雨の碑、林芙美子の碑、工藤侘痴の碑、花本聴秋の碑、徳治の碑、三浦命助の碑、児島大梅の句碑、測量之碑、あすに向かって、起伏のある形・セレナーデ・記憶の箱（以上、ストリートギャラリー）
街道	浜街道、甲子街道、小川新道、和山街道、仙人街道、笛吹街道、義経北行伝説コース
文化財	橋野高炉跡、星座石、栗林銭座跡、女坂石の証文、本郷御番所跡、平田御番所跡、石塚峠の藩境・印抗、牧庵鞭牛隠居屋敷跡、小川アーチ橋梁
巨木等	和山シナの木、古里の御神楽スギ、明神カツラ、鵜住神社の夫婦クロベ、外山のエゾノキ

資料：釜石市エコミュージアム構想報告書等

3) 観光レクリエーション施設

観光レクリエーション施設としては、鉄の歴史や海、自然環境に因んだものを中心として、以下のようなものがある。

表2 - 1 - 4 釜石市の観光レクリエーション施設等

区 分	名 称
建物などの施設	鉄の歴史館、釜石物産センター、観光船はまゆり、釜石大観音、釜石鉱山資料館、サンフィッシュ釜石、郷土資料館、
公園や歩道など	根浜海岸キャンプ場、青の木グリーンパーク、尾崎半島・箱崎半島・仙人峠自然遊歩道、水海都市公園、南リアスの森運動公園、上中島グラウンド、根浜・荒川・杉の浜海水浴場、どんぐり広場、大橋・大平・橋野・根浜さわやかトイレ

資料：釜石市エコミュージアム構想報告書等

4) まつり、イベント

釜石市で伝統的に開催されているまつりなどのイベントとしては、以下のようなものがある。

表2 - 1 - 5 釜石市の主なまつり、イベント

名 称	備 考
釜石さくら祭	4月下旬(3年に1度)
薬師公園桜まつり	4月下旬
釜石大観音炎の祭典	5月
五葉山山開き	6月第1日曜日
綿津見神社例祭	6月中旬
根浜海岸海開き	7月中旬
釜石よいさ	8月
納涼花火大会	8月中旬
釜石まつり	10月第3金、土、日曜日
釜石まるごと味覚フェスティバル	10月下旬
鉄の記念日特別企画展	12月1日
あったかメルヘン夢街道	1月下旬

資料：釜石観光協会ホームページ等

5) スポーツ行事

生涯スポーツの振興や、体育関係団体及びスポーツ行事等への補助金の交付などを通じて実施されているスポーツ行事としては、以下のようなものがある。

表2 - 1 - 6 釜石市のスポーツ行事

区 分	名 称
生涯スポーツ活動	歩け歩け運動
	全日本女子柔道アテネオリンピック強化合宿
	釜石ラグビーフェスティバル
スポーツ大会	釜石はまゆりトライアスロン国際大会
	岩手県弓道釜石大会
	岩手県シニアソフトボール大会
	三陸縦貫自動車道沿線50歳野球大会
	岩手県高等学校総合体育大会なぎなた競技
	三陸海岸学童少年野球大会
	秋季パウンドテニス岩手県大会
	東北総合体育大会なぎなた競技
	全国スポーツチャンバラ東北選手権大会
	SANRIKU CUP ビーチボール競技大会

資料：平成16年度主要施策の成果に関する説明書 釜石市

2 - 1 - 3 交通アクセスの状況

釜石市を起点に、秋田県に至る総延長 212km の東北横断自動車道釜石・秋田線の工事が行われており、このうち、秋田自動車道約 123km は既に通し、現在、釜石・花巻間約 79km の整備が順調に進められている。また、一般国道 283 号仙人峠道路は、釜石市を起点に、遠野市に至る総延長 18.6km の自動車専用道路で、将来は、東北横断自動車道釜石・秋田線の一部に組み込まれる予定となっており、平成 18 年度中に開通する見込みであるが、開通によって走行時間が約 30 分短縮され、内陸都市部などへのアクセスが飛躍的に向上する。

その他、仙台を起点に、釜石市を経由し宮古市に至る総延長約 220km の自動車専用道路である三陸縦貫自動車道については、三陸沿岸の新たな連携や交流による地域づくりの可能性が広がる路線として、沿線の期待を集めながら現在工事が進められている。

鉄道路線としては、釜石と花巻を結ぶ J R 釜石線、釜石から宮古を経由し盛岡へつながる J R 山田線のほか、釜石から大船渡までの三陸鉄道南リアス線、宮古から久慈までの三陸鉄道北リアス線が第三セクター方式で運営されている。

一方、市内の道路交通については、面積が広い反面宅地が少なく、集落が山間地に点在して岬も張り出すなど、地形の関係から各観光資源とのアクセス性が悪い。このため、高速道路のインターチェンジや新幹線駅、空港から遠距離であることも加わって、観光客が減少する大きな要因となっている。



図 2 - 1 - 7 東北地域の高規格道路網

出典：国土交通省東北地方整備局 事業概要

2 - 1 - 4 特産品と味覚

釜石市の特産品としては、三陸海岸に面していることから、わかめなどの海藻類を始めさんまみりん干し、サケなどの各種缶詰類のほか、ホタテ、アワビ、カキなどの海産物がほとんどだが、三陸海宝漬などの一部を除いては知名度が低い。同時に、お菓子や民芸品などについても特色のあるものが少なく、かまいし特産店においてもかもめの卵など他地域のお菓子の方が良く売れている実態にある。

飲料に関しては、地酒や地ビールのほか、ミネラルウォーターが市内二つの工場で製造されており、先行して生産されている仙人秘水については、災害時における保存水として活用されるなど、比較的知名度を有している。

釜石若しくは周辺地域を含めた独自のブランドとしては、マツカワやチョウザメの養殖に力を注いでいるものの、マツカワについては安定供給に難があり、キャビアの生産に着手したチョウザメについても、市場に一定量供給するためには未だ暫くの時間を要するものと思われる。

表 2 - 1 - 9 釜石市の特産品

区 分	摘 要
海産物	三陸産わかめ、さんまみりん干し、三陸荒波、鮭水頭・わさびめかぶ、やみつきさんま、キャビア・チョウザメスモーク、うにほたて缶、三陸海宝漬、リアスの詰合、麦いか素干し、ホタテ・鮑・牡蠣
食品	本魚醤、仙人長老喜、南部の手打ちうどん、仙人柿酢・大蒜酢、タンパッキー、各種缶詰
お菓子	かまいし鐵のふるさと、釜石よいさ、観音拝、虎焼、いかせんべい
お酒・飲料	海のビール、清酒浜千鳥、仙人秘水・大峰輝水、名水山華
民芸品・その他	釜石虎頭、陶器、和紙人形・豆雛、ラグビーグッズ、漁火散景（ポストカード）

出典：かまいし特産店物産品紹介 釜石振興開発㈱

2 - 1 - 5 物産展等の開催状況

釜石市が、釜石・大槌地区物産振興協会や釜石振興開発㈱などとともに開催、あるいは依頼によって行う物産展は、以下のとおりとなっている。

開催時期は、秋を中心としているものの、春から冬にかけても満遍なく実施されており、また、まるごと味覚フェスティバルの中に組み込まれている産業まつりは27回の開催回数を数えるなど、地域に密着しているものも少なくない。

さらに、県外に出向いて行う物産展についても、仙台市内の藤崎デパートの釜石・遠野地方の物産展など、歴史を有するものが多い。近年では、大槌町や遠野市、花巻市などの隣接市町と一体となった催事も取り組まれているところである。

表 2 - 1 - 1 0 釜石市の特産展の開催状況

催事名	場所	期日	備 考
釜石物産フェア	盛岡市	4月	6業者
川の手荒川まつり	荒川区	4月	釜石特産店
釜石線沿線活性化事業	釜石市	6月	13業者
ハウエイコミュニケーション東北	仙台市	8月	釜石特産店
釜石・遠野地方の物産展	仙台市	9月	3業者
まるごと味覚フェスティバル	釜石市	10月	35業者
躍進いわての産業まつり	遠野市	10月	3業者
東京はまゆり会	台東区	11月	2業者
東海秋まつり	東海市	11月	2業者
ふるさと釜石味めぐり	盛岡市	11月	6業者
岩手県の物産と観光特別展	大阪市	1月	1業者
岩手県の物産と観光特別展	名古屋市	2月	2業者
あったか川ノ夢街道わんぱく共和国	釜石市	1月	9業者
上杉雪灯籠まつり	米沢市	2月	2業者
岩手県の物産と観光特別展	中央区	3月	3業者
釜石・大槌・遠野の物産展	仙台市	3月	2業者

出典：平成 17 年度釜石・大槌地区物産振興協会総会資料

注 1 . まるごと味覚フェスティバルでは、産業まつり、農業祭、水産まつりも併催している。

2 - 2 釜石市の観光の動向

2 - 2 - 1 観光客入込み特性等

1) 観光レクリエーション客の推移

釜石市の観光客数は、平成元年に初めて 100 万人を超えた後、同 4 年には「三陸海の博覧会」が開催されたことから 230 万人を記録、以後 100 万人台を維持してきたが、13 年に 97 万人となって以降減少傾向が続き、15 年には 90 万人台も割り込んでいる。

施設別では、釜石大観音を中心とする鎌崎は、昭和 45 年の同観音の落慶以後順調に誘客数が伸び、51 年以降 20 万人台を維持してきたが、平成 6 年に 20 万人を割ってからは減少の一途にあり、17 年には 9 万人台まで落ち込んでいる。

夏期の観光の中心となっている根浜海岸も、平成元年の 32 万人を最高に減少し、15 年には 6 万人にまで減っている。最も安定しているのは五葉山であるが、年間の入込み客数は 2 万人程度に過ぎない。

県内及び県外の比率では、従来 2 割強であった県外客が増加し、三陸海の博覧会の開催を契機に一層拍車がかかり、平成 8 年には 45% まで県外客が伸びたものの、これをピークに減り、現在は全体の約 3 分の 1 程度となっている。

一方、平成 16 年度における月別の入込み客数では、最も観光客数の多かったのが 8 月の 17 万人で、以下 10 月の 15 万人、1 月の 10 万人、5 月と 7 月の 7 万人が続き、最も少なかったのは 2 月と 3 月の 2 万人と、夏期のイベント及び海水浴場、秋や正月のイベントなどに依存している実態が浮き彫りとなっている。

表 2 - 2 - 1 観光レクリエーション客の推移（単位：人）

区 分	大観音	根浜海岸	荒川海岸	その他海岸	五葉山	その他	県 内	県 外	合 計
昭和50年	187,598	171,570			11,428	78,000	326,766	121,830	448,596
55年	177,790	59,830	24,180	19,008	6,690	45,447	261,954	70,991	332,945
60年	271,342	89,271	42,916	118,435	5,534	254,975	654,108	128,365	782,473
平成2年	263,671	175,617	33,480	104,686	15,756	333,940	540,729	386,421	927,150
7年	197,456	154,360	52,871	98,430	27,766	669,168	667,870	532,181	1,200,051
12年	121,798	121,577	38,400	62,333	28,775	734,428	722,228	385,083	1,107,311
13年	132,450	74,224	20,808	44,188	23,806	682,399	665,925	311,950	977,875
14年	125,629	87,087	21,535	44,604	21,775	630,134	626,805	303,959	930,764
15年	114,976	68,790	16,389	32,858	22,200	636,870	595,266	296,817	892,083
16年	117,480	91,751	22,279	39,085	22,657	606,253	606,580	292,925	899,505
17年	93,879	79,187	18,994	34,476	21,523	563,026	554,225	256,860	811,085

出典：観光レクリエーション客入込み状況年表 釜石市

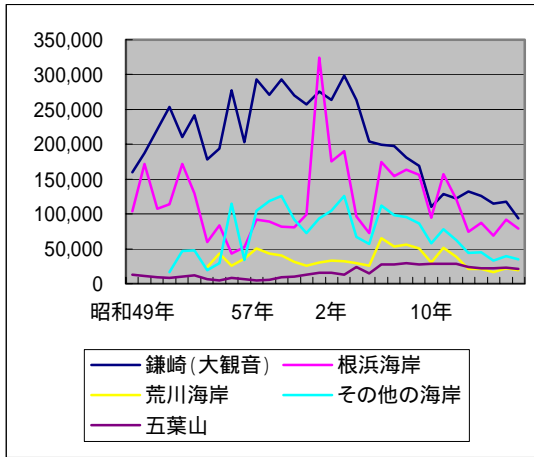


図 2 - 2 - 2 観光地別入込み客数の推移

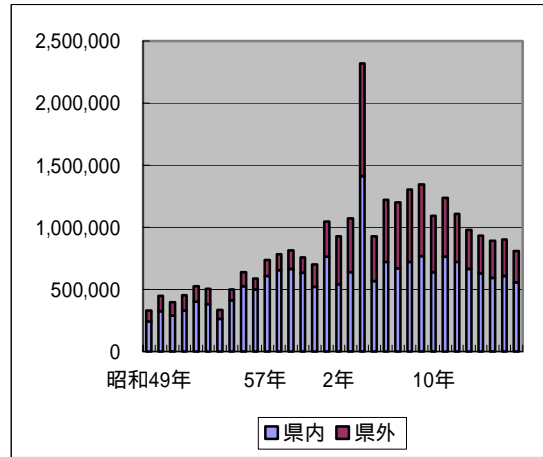


図 2 - 2 - 3 県内・県外別入込み客数の推移

出典：観光レクリエーション客入込み状況年表 釜石市

そのほか、釜石よいさ、釜石納涼花火大会、釜石まつり、釜石まるごと味覚フェスティバルなどのイベントは、荒天時を除いて概ねそれぞれ3万人程度の集客で推移している。

表 2 - 2 - 4 イベント別観光客の推移（単位：人）

区 分	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
釜石さくら祭り	18,000	-	-	18,000	-	-
夏の港まつり	15,000	20,000	25,000	18,000	15,000	15,000
釜石よいさ	30,000	30,000	25,000	25,000	25,000	33,000
釜石納涼花火大会	30,000	50,000	35,000	50,000	31,000	35,000
釜石まつり	65,000	50,000	50,000	30,000	30,000	30,000
釜石まるごと味覚フェスティバル	74,000	75,000	28,000	32,000	32,000	13,000
計	232,000	225,000	163,000	173,000	133,000	126,000

出典：観光客入込み数の推移 釜石市

2) 施設別利用状況

主要な観光施設別の利用状況では、釜石大観音や釜石物産センターが、平成10年における利用数を維持しているものの、鉄の歴史館や観光船はまゆりについては、総合的な観光客数の減少に比例する形で利用者数が年々下がっている状況にあり、鉄の歴史館は、開館した年の54,498人、翌年の68,893人と比較すると4分の1程度まで、観光船はまゆりについては、就航した平成9年の22,194人の半分以下まで落ち込んでいる。

表 2 - 2 - 5 主要な施設別観光客の推移（単位：人）

区 分	平成5年	平成10年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
釜石大観音(鎌崎)	204,328	110,686	125,629	114,976	117,480	93,879
鉄の歴史館	35,177	29,720	22,509	22,046	18,901	18,160
観光船はまゆり	-	12,398	14,201	10,983	10,348	9,455
釜石物産センター	-	392,206	358,584	429,315	400,093	375,880

出典：観光レクリエーション客入込み状況年表 釜石市

3) 形態別入込み客数

日帰り及び宿泊別では、宿泊可能な観光ホテルが限定されているほか、旅館などの軒数も減少の傾向にあることを反映し9割近くが日帰り客となっているが、特に近年、旅行の形態が「安・近・短」を志向していると言われており、このため、宿泊者の比率が徐々に減少している状況にある。

表2-2-6 日帰り・宿泊別観光客の推移(単位:人)

区 分		平成5年	平成10年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
県内	日帰り	522,845	572,442	593,542	567,142	571,217	502,520
	宿 泊	44,333	68,934	33,263	28,124	35,363	51,705
	計	567,178	641,376	626,805	595,266	606,580	554,225
県外	日帰り	285,102	377,583	232,313	223,415	224,741	176,098
	宿 泊	78,074	72,411	71,646	73,402	68,184	80,762
	計	363,176	449,994	303,959	296,817	292,925	256,860
総数	日帰り	807,947	950,025	825,855	790,557	795,958	678,618
	宿 泊	122,407	141,345	104,909	101,526	103,547	132,467
	計	930,354	1,091,370	930,764	892,083	899,505	811,085

出典:観光レクリエーション客入込み状況年表 釜石市

4) 観光客の動態

平成16年5月に、釜石物産センター、釜石大観音、鉄の歴史館及び観光船案内所で行った観光客動態調査では、195名の回答者のうち、県外客が112名で半数を超え、約7割を30代から50代の年齢層が占め、来訪回数は3回目とする者が109名、初めてが56名と続き、同行者の質問では、家族と回答した者が8割以上あった。

また、旅行ルートとしては、花巻-釜石が41名、盛岡-遠野-釜石が30名、利用交通機関は自家用車が8割以上、旅行目的は「美しい自然を見る」が68名、次いで「郷土料理・お土産品」が38名、「史跡・文化財・街並みの鑑賞」37名の順であった。

表2-2-7 観光客の動態(単位:人)

性 別		年 齢		職 業		来訪回数		同行者	
男	61	10代	4	サラリーマン	87	初めて	56	家族	162
女	43	20代	22	主婦	23	2回目	22	友人	12
無回答	91	30代	47	無職	11	3回目	109	ひとり	7
		40代	44	自営業	10	無回答	8	その他	8
		50代	50	学生	3			無回答	6
		60代	5	その他	5				
		無回答	23	無回答	56				
県内/県外									
県内	75								
県外	112								
無回答	8								

表 2 - 2 - 8 観光客の動態（単位：人）

旅行ルート		交通機関		旅行目的	
花巻 - 釜石	41	自家用車	161	美しい自然を見る	68
盛岡 - 遠野 - 釜石	30	鉄道	19	郷土料理・お土産品	38
北上 - 釜石	22	飛行機	2	史跡、文化財、街並みの鑑賞	37
盛岡 - 宮古	20	路線バス	1	レジャー・スポーツ	20
八戸 - 宮古	10	貸切バス	1	イベント見学	2
一関 - 大船渡	5	その他	5	団体旅行	5
仙台 - 気仙沼 - 大船渡	5	無回答	9	その他・何となく	5
無回答	62			無回答	20

釜石を選択した理由としては、72 名が無回答であったが、それに次いで多かったのが「前
に来たことがある」、「有名だから」、「新聞・雑誌を見て」と続き、リピーターが多いとと
もに、宣伝効果も表れているところである。

立ち寄り先としては、調査実施個所の関係もあって、シーブラザ釜石、釜石大観音、鉄
の歴史館、観光船はまゆりが多数を占めていた。

表 2 - 2 - 9 観光客の動態（単位：人）

選択理由 (複数回答)	立ち寄り先(観光施設 等)複数回答	立ち寄り先(物産販売施設 等)複数回答)
前に来たことがある	釜石大観音	シーブラザ釜石
有名だから	鉄の歴史館	サンフィッシュ釜石
新聞・雑誌を見て	観光船はまゆり	どんぐり広場
薦められて	五葉山	いきがい市場
ポスター・パンフレットを見て	根浜海岸	その他
ツアーのコースに入っている	箱崎半島	
その他・何となく	橋野高炉跡	
無回答	尾崎半島	
	中村判官堂	
	その他	

お土産品の購入についての質問に対しては、買った者と買う予定の者を合わせると 128
名となり、3分の2の観光客は何らかのお土産品を購入し、観光中にしてみたいことの質問
に対しては、「特定の食べ物を食べる」が 69 名で 35%、「家族とのふれあいを楽しむ」が
58 名で 30%、「有名な観光地を訪れる」が 54 名で 28%となっている。

リピーター……旅行などで同じ地を再び訪れる人

表 2 - 2 - 10 観光客の動態（単位：人）

土産品購入		観光中にしてみたいこと(複数回答)	
買う予定	85	特定の食べ物を食べる	69
買う予定はない	47	家族とのふれあいを楽しむ	58
買った	43	有名な観光地を訪れる	54
無回答	20	時間を忘れてのんびりする	43
		イベントや様々な体験に参加する	20
		特定の商品を買う	13
		地元の人と交流する	8
		その他	10

観光客の現住所では、無回答が 86 人と最も多かったが、それに続いて山形県が 18 人、宮城県が 16 人、東京都が 15 人であった。秋田県からの観光客は僅か 3 人で、東北横断自動車道を利用して秋田から来る観光客が意外と少ないのが分かった。

滞在時間では、2 時間以上 3 時間未満が 45 人と最も多く、24 時間以上滞在するものも 37 名と次に多かった。

表 2 - 2 - 11 観光客の動態（単位：人）

現住所(県外内訳)		滞在時間	
青森県	3	1時間未満	6
秋田県	3	1時間以上2時間未満	21
宮城県	16	2時間以上3時間未満	45
山形県	18	3時間以上5時間未満	29
福島県	4	5時間以上8時間未満	12
茨城県	4	8時間以上	6
栃木県	4	12時間未満	5
群馬県	6	12時間以上15時間未満	2
埼玉県	9	15時間以上18時間未満	3
千葉県	6	18時間以上21時間未満	6
東京都	15	21時間以上24時間未満	1
神奈川県	6	24時間以上	37
新潟県	8	無回答	22
愛知県	4		
大阪府	3		
無回答	86		

出典：観光客動態調査結果（平成 16 年 5 月 2 日、3 日） 釜石市

5) 観光消費額の実態

観光客が消費する金額についての調査では、前回調査の 12 千円よりさらに増加し 19,443 円となっており、その内訳は、交通が 5,388 円、宿泊が 5,259 円、土産が 5,100 円の順となっている。総消費額が多いということは、それだけ地元企業などへの波及効果も高いと

ということになるが、反面、交通や宿泊などの費用がかかり、旅行者からは敬遠されるということにもつながることに留意しなければならない。

表 2 - 2 - 11 観光消費額の状況（単位：円）

宿泊	食事	交通	土産	その他	総消費額
5,259	2,800	5,388	5,100	896	19,443

出典：平成 17 年度観光実態調査結果 釜石市

2 - 3 釜石市の観光を取り巻く課題

釜石市は、三陸漁場を控えて古くから漁業が栄え、また、鉄鋼業を中心として東北有数の工業都市として発展し、昭和 30 年代には人口が 92 千人を数えるなど「鉄と魚のまち」として知られてきた。近年、産業構造の大幅な変革によって二大基幹産業が低迷し、人口も 40 年以上にわたって減少が続く中、鉄と魚という雑然とした釜石市のイメージとともに、観光についても、近隣他都市と比較して差別化ができないことから停滞している状況にある。本市の、観光に関する課題を挙げると以下のとおりとなる。

釜石大観音や根浜海岸以外に、多くの集客を図れる施設や資源がない。

観光資源が南北に閉鎖的な市街に点在し、周遊するには物理的・時間的に困難である。

釜石市へ向かう道路や鉄道などの交通基盤が脆弱である。

観光バスや観光タクシーなどの、観光を担う交通機関がない。

花巻や遠野、宮古などの他圏域との連携が進まず、観光面での連担性にも乏しい。

ホテルなど、宿泊やコンベンション機能が弱い。

民間事業者や中間組織としての観光協会など、観光を担う組織が成熟していない。

新鮮な魚や市場を連想する施設やイベントが少ない。

工業都市のイメージが強いため、観光地としてのイメージに欠ける。

観光情報の発信・案内機能が脆弱で、観光客の要求に的確に対応できていない。

観光地のイメージに欠け、受け入れ体制も未整備で、顧客のニーズにも対応していなかったため、観光客が減少している

第3章 釜石市観光振興ビジョンの立案

3-1 上位・関連計画等

3-1-1 上位計画

1) 釜石市総合計画

第五次釜石市総合計画（計画期間平成12年度～22年度）では、その基本構想の中で、少子化と高齢社会の進展や環境保全と健康志向の高まり、高度情報化の進展、価値観や意識の転換、地方分権と住民自治意識の高まりといった、時代の潮流と釜石をめぐる諸情勢の変化を捉えたうえで、魅力ある就業の場の確保、交流基盤の強化、商業空間と街並みの魅力向上、子育て環境と高齢者の暮らしやすさの向上、防災対策の充実をまちづくりの主要課題として掲げ、にぎわいと活力産業が展開するまち、すべての人に優しい快適なまち、創造性豊かな人を育むまちを、まちづくりの基本目標として掲げている。

この基本目標を実現するため、前期基本計画に定めた各般の施策を推進した結果、都市基盤や子育て環境、高齢者の暮らしやすい環境などの整備が進んだものの、水産業などの地場産業の低迷や人口の減少が続くとともに、地方交付税の削減による市財政の困窮の度合いが強まるなど、地域の社会経済情勢は一段と厳しさを増していることを踏まえ、平成18年度から22年度を計画期間とする後期基本計画を策定した。

この計画では、観光の振興については、「にぎわいのあるまちづくり」のうち、「交流人口の創出」と「交流基盤の強化」の施策体系の中で、以下のように位置付けているところである。

(1) 地域の資源を生かす観光の振興

- 観光資源の発掘と有効利用
 - 地域資源の掘り起こしやルートの確立
 - 一次産業と観光の連携
 - 体験型観光の環境整備
 - 観光客受け入れ態勢の強化
 - 自然景観、ラグビー等の利用
 - 四季折々の個性的イベントの開催
 - 集客効果のある各種大会の誘致
 - 観光情報の受発信の強化
 - 沿岸や県内中部地域との広域連携
 - 広域ルートの設定とPR
 - インターネットなどのメディアの利用
- } 鉄の歴史や海山資源の活用
- } 通年的な滞在観光の振興
- } 観光宣伝活動の充実

(2) 交流・連携のまちづくり

- 交流・連携ネットワークの構築
 - スポーツ・文化、地域づくり活動の支援
 - 各種団体やボランティア等の育成
 - 釜石市出身者や縁のある人材の活用
 - スポーツ合宿やイベントの誘致、開催
- 交流・連携による地域づくりの推進
 - 市内の資源を再認識する活動
 - 広域的な観光ルートの形成
 - 体験学習施設などの利用促進

市民レベルでの交流の促進

交流人口の拡大

2) 三陸地方拠点都市地域基本計画

平成6年9月、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町、三陸町、大槌町、田老町、山田町及び新里村（当時）からなる三陸地方拠点都市地域推進協議会では、岩手県知事からの三陸地方拠点都市地域の指定を受け、「さんりくサンライズ交流都市圏」を将来像とした三陸地方拠点都市地域基本計画を策定し、適切な機能分担と相互補完関係のもとに、多様な都市機能が高度化された快適で潤いのある生活空間を形成するとともに、地域に蓄積された技術、人、物を活用した産業の振興を図りながら、国土の均衡ある発展に貢献することとした。

観光レクリエーションに関しては、釜石市の観光船はまゆりの運航や物産センターの運営を始めとして、各地域の観光レクリエーション施設を整備し、観光客が四季を通じて滞在するような滞在機能を強化することとしている。また、地域間交流に関しては、豊かな自然や歴史文化を生かした文化やスポーツ競技、イベント、レクリエーション活動を積極的に行いながら、多様な地域間交流を推進することとしている。

3 - 1 - 2 関連計画等

1) 釜石市エコミュージアム構想

釜石市の、近代製鉄発祥の歴史や自然環境などの恵まれた地域資源、拠点都市地域としての市内中心部における活性化に対する取り組みなどを背景に、釜石市総合計画の重点施策である「鉄の歴史と環境を生かす地域づくり」の具体化に向けて、平成13年3月、釜石市エコミュージアム構想（計画期間、概ね10年間）を策定した。

この構想は、地域の再認識と郷土への誇りの醸成、博物館機能の整備・充実、地域資源を生かした地域活性化の三点を基本方針として、地元学（釜石学）による地域づくりと交流人口の増加を図りながら地域の活性化を目指し、「鉄と自然の博物館釜石～釜石学による地域づくり～」としたところである。

具体的には、地域別資源調査支援事業やガイド及びインストラクター育成事業を通

じて、地域の再認識と郷土への誇りを醸成するとともに、博物館を構築するために必要な母体組織を設立しながら博物館機能も併せて整備し、特産品の開発やイベントの開催、インターネットの活用などによって地域の活性化に向けようとしている。

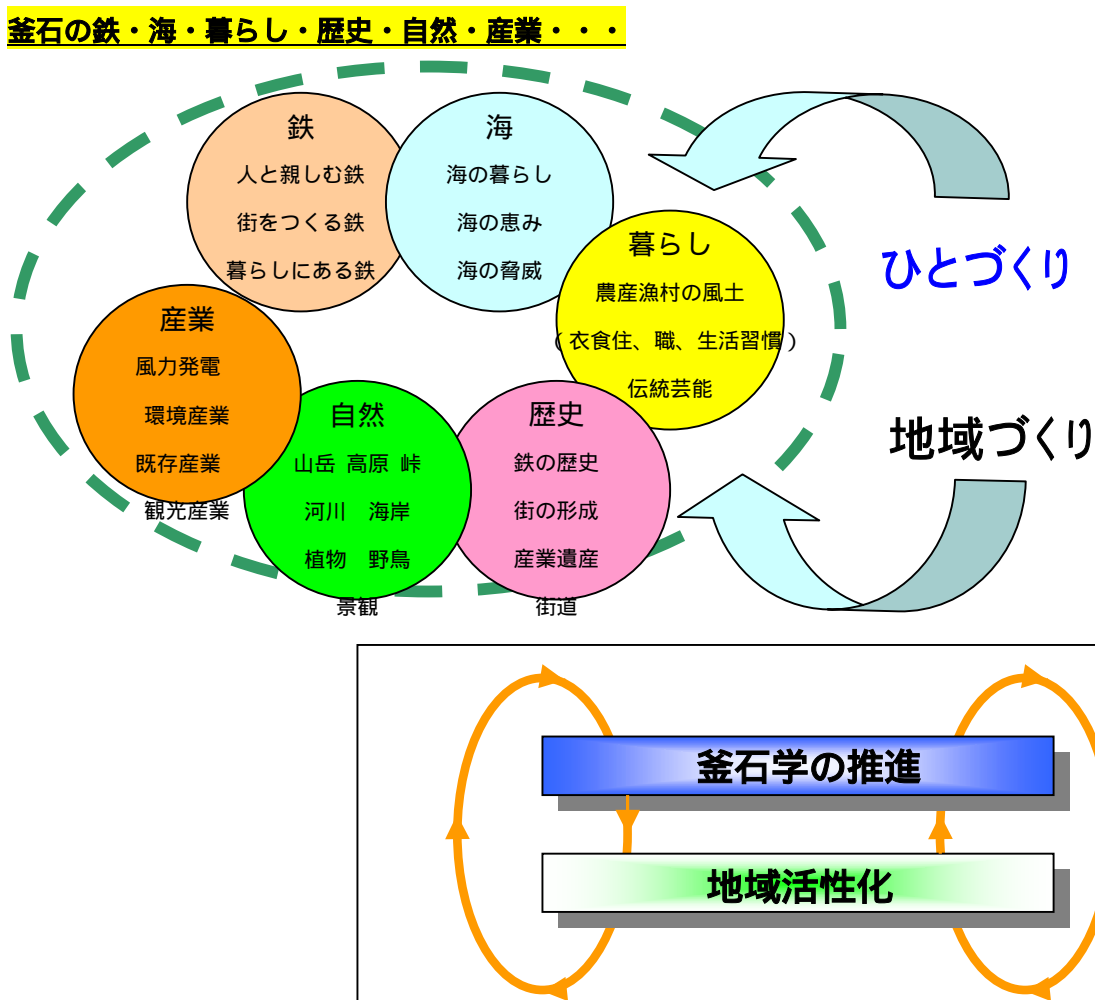


図3 - 1 - 1 エコミュージアム構想の概念図

出典：釜石市エコミュージアム構想報告書

2) 釜石市景観形成基本方針

平成7年3月に策定した釜石市景観基本方針は、より豊かな生活環境づくり、よりいきいきした地域づくり、豊かな自然の創出と継承、ふるさと釜石の創造の三点を基本理念に、景観形成の基本目標として、豊かな自然を守り育てる景観形成、地域性、歴史性を生かした景観形成、活力と魅力ある市街地の景観形成、安らぎのある住宅地の景観形成、躍動感ある産業、港湾の景観形成を掲げている。

具体的には、国道45号に沿った浜街道を軸に、東側を海岸景域、西側を山岳景域

に色分けしたうえで、海岸については大槌、両石、釜石、唐丹それぞれの湾域ごとにゾーニング。山岳については、鵜住居、小川、甲子の各河川流域のほか、五葉山麓と和山高原に分けてゾーニングし、それぞれの地域特性を踏まえて景観を保持並びに向上させることとしている。

3) 釜石市中心市街地活性化基本計画

国の関連 13 省庁が連携して賑わいを取り戻すための各種事業を総合的に実施することを内容とする中心市街地活性化関連法の成立を受け、平成 12 年 3 月、釜石市中心市街地活性化基本計画が策定された。この計画では、市街地を西部地域、鈴子地域、東部地域と三つに分け、それぞれの現況や特性、問題点及び課題等を整理したうえで、特に東部地域については、「戦略プラン」と位置付けて、「海と鉄」をコンセプトとした商業機能とまちの空間を形成しようとするものである。

戦略プランでは、釜石駅周辺を「新シープラザ計画」、魚河岸地域を「シートピア計画」、両計画地を結ぶ主要地方道釜石港線を「マリンプロムナード計画」、青葉通り周辺地域を「セントラルプラザ計画」として、ソフト、ハード両面からの施策をまちづくり機関などとともに一体的に進めることとしているが、観光面では、「シートピア計画」において、魚市場移転後の魚河岸地域に海の産直や市などの商業機能のほか、緑地広場、トイレ、駐車場の整備とともに観光船はまゆりの発着場の須賀地区からの移転を検討することとしている。

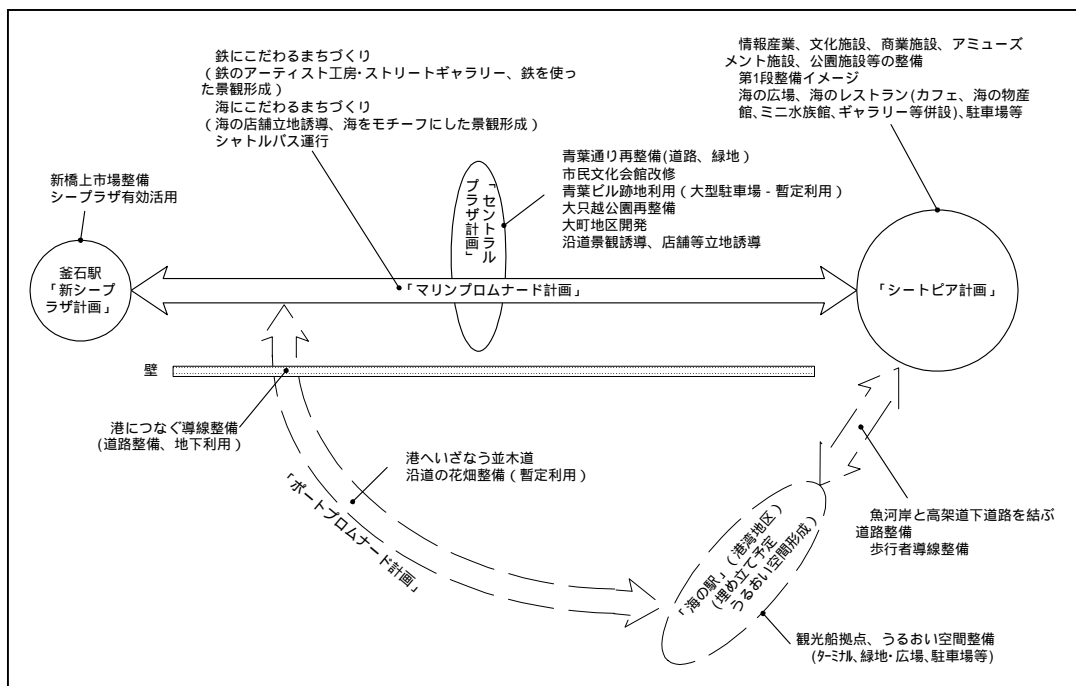


図 3 - 1 - 2 戦略プランの概念図

出典：釜石市中心市街地活性化基本計画書

ゾーニング・・・各地域を用途別に区画すること。

4) 釜石港港湾計画

平成 10 年 12 月に、同 20 年代前半を目標年次とする釜石港港湾計画が改訂された。この計画では、須賀地区にうるおい空間の創出と小型船だまりや緑地等の親水空間の確保、大規模地震対策施設の整備が位置付けられた。なお、昭和 52 年の改訂で位置付けられた須賀地区の公共埠頭及び湾口防波堤は、引き続き整備されることになっている。

表 3 - 1 - 3 釜石港港湾計画の内容

区 分	内 容
うるおい空間の創出と小型船だまりの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀地区の物揚場施設が観光船の発着場として利用されているが、釜石湾の観光基地としての機能を充実させるとともに地域交流を支援するため、当該地区に新たに計画する観光船ターミナルを中心とした「うるおい空間」の創出を図る。 ・併せて、官公庁船、漁船、プレジャーボート等の小型船の集約を行う。
緑地用の親水空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・釜石市は、山地が海岸付近まで迫っており、平坦地が少なく市民や観光客が集い、憩うための緑地等のまとまった空間が少ないことから、甲子川沿いに親水性のある緑地を計画する。
大規模地震対策施設	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災を教訓とし、釜石港についても、大規模地震が発生した場合に、災害直後においても緊急物資の海上輸送を円滑に行えるような震災に強い港湾機能の確保を図るため、既定計画の須賀地区水深7.5m、延長130mの岸壁を耐震強化施設として計画する。

出典：釜石港港湾計画書

3 - 1 - 3 調査報告等

1) 釜石市温水脈探査事業委託報告書

釜石市では、平成 9 年 1 月から 3 月に、温泉源の取得の可能性について判断するとともに温泉開発有望地域を選定することを目的に、釜石市内を対象として温水脈探査事業を実施した。

調査方法としては、地表地質踏査と空中写真解析による 1 次調査、及び電磁探査と自然放射能探査を中心とした 2 次調査による温泉源調査であったが、1 次調査において、地質条件や地形的条件から考察した結果、鶴住居町根浜から箱崎付近が 2 次調査地域として選定された。

この結果をもとに、四つの候補地点において電磁探査し、いずれも花崗岩類分布域で、比抵抗値から判断して亀裂の発達若しくは断層構造を伴うことが確認され、1 地点は 500m までの掘削で温泉法の指定が得られる可能性が存在すると確認されたが、予想孔底温度は 19.4 ~ 20.4 と推定された。また、他の 3 地点では、25 以上の

泉温を目標とするためには 1500m以上の掘削が必要とされたところである。

これらを総合的に判断した結果、実質的に掘削可能な候補地点は、根浜地区 2 箇所、箱崎地区 1 箇所の合計 3 箇所と報告された。

しかし、温泉源開発については民間活力の導入を前提とした考え方の中で進められてきたものであり、当該地域を含めてその後の開発には至っていない。

2) 釜石港高度利用検討調査報告書

湾口防波堤や公共埠頭、新仙人峠道路などの釜石港を取り巻く主要な事業が、平成 18 年度中に概成又は完成の運びとなっていることから、釜石港及び周辺地域の利用について、釜石港港湾計画を基本としながらも、完成車両などの物流の活発化を始めとする状況の変化に対応するため、釜石港高度利用検討調査委員会（委員長、平山健一現岩手大学長）では、平成 13 年に釜石港高度利用検討調査を行った。

この調査の対象地域は、魚河岸地区を含めた釜石港の港奥部とその周辺部及び背後地であるが、CGC 船による一般貨物、フィーダーコンテナ貨物、内航 RORO 船貨物、完成車両及び原木などの貨物が安定的に推移する見通しから、物流機能を展開する空間として、港奥部、南防波堤東側及び中番庫の三つの利用案を挙げた。

これにしがたい、釜石市中心市街地活性化基本計画に示された海の産直や市などの商業機能、既設漁船係留施設などの水産機能、公園・緑地機能、駐車場機能のほか、観光船発着場を始めとするターミナル機能は、全体的な漁業や観光振興の観点から魚河岸地区への整備が望ましいとして方向付けられている。

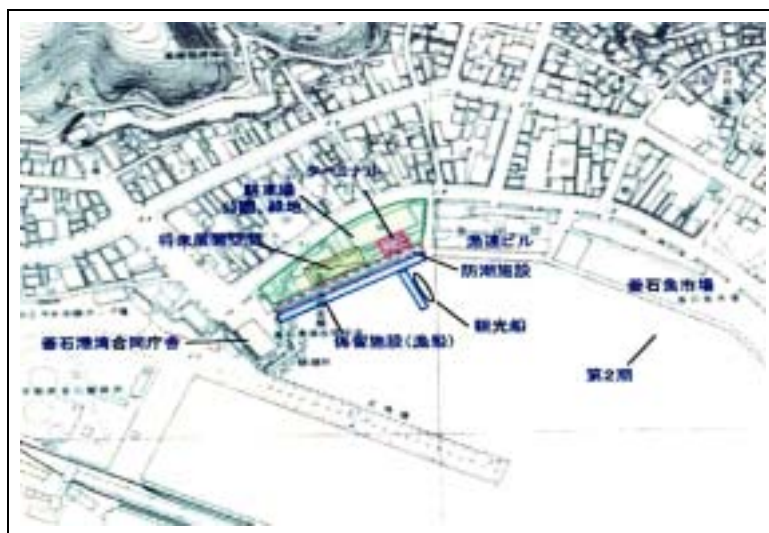


図 3 - 1 - 4 観光船発着ターミナルの一例

出典：釜石港高度利用検討調査報告書（その 2） 釜石港高度利用検討調査委員会

3) 釜石地区産業遺産調査報告書

大島高任没後 100 年、伊能忠敬来釜 100 年を迎えた平成 12 年、わが国近代製鉄発祥の地として多数の産業遺産が残存していると思われることから、釜石地区の産業遺産の洗い出しと分類整理、あるいは保存についての緊急性について調査・検討し、ひいては地域住民の産業に対する関心を高めつつ、次世代への啓発を図るため、産業考古学会釜石地区産業遺産調査委員会（委員長、小野寺英輝岩手大学助教授）では、産業遺産の調査事業を実施した。

調査は、鉄の歴史館や郷土資料館、釜石鉱山資料展示室に収蔵されている資料のほか、個人所有の遺産についても現地調査し、データベース化したほか、遺物全体の価値を A から G までの判定によりランク付けした。

この調査報告書では、文化的な視点や教育的な側面からの産業遺産の活用ばかりではなく、技術的な観点から地域を見直しながら、産業という非日常の体験を前面に打ち出した「産業観光」という新たな分野における観光、あるいは稼働中の工場も含めた産業の流れを発信しようとする「工場観光」について、英国のクウォーリ・バンク・ミル博物館やバーミンガムの鉄道博物館、米国のスミソニアン博物館などの例も挙げながら提言している。

表 2 - 1 - 5 産業遺産の評価の概要

区 分		内 容
A	文化財、文化財相当	星座石、栗林銭座跡、史跡橋野高炉跡、大橋鉱山絵図面、マインカーローダー、C20型機関車、釜石技長「ビヤンシー」報告書、アーチ橋梁など
B	将来文化財となり得る	田中鉱山栗橋分工場関係文書、初めての輸送トラック(写真)、高炉製炉概図、坑内帽、仮坑区券、異形レンガ、カーバイト釜など
C	保存の要があるもの	六黒見金山跡、田中製鉄所栗橋分工場銑鉄、私立釜石鉱山小学校(写真)、レール、本店総務部関係綴、三陸汽船から横山所長宛感謝状など
D	公的保存の要が無いもの	釜石製鐵所本館、三ノ橋、南棧橋、湯沸し釜、釜石港修築計画平面図、釜石鉱山田中製鉄所全景写真など
E	現状のままでよいもの	カネホッパ
G	評価が困難なもの	盛岡領鉱山箇所書、大橋鉱山高炉に関する書状、マンガン採掘坑跡、元禄十二年絵図、社線鉄道のレール、溶鉱炉之図など

出典：釜石地区産業遺産調査報告書 産業考古学会釜石地区産業遺産調査委員会

3 - 2 釜石市における観光振興の方向性

従来の観光は、温泉地や景勝地を巡る団体旅行が一般的であり、道路などの交通基盤が脆弱で工業都市として歩んできた当市は、このような観光資源にも乏しく、そのため、観光旅行の対象としてはインパクトが弱かった。

しかしながら、自由時間の増大、本格的な少子高齢化社会の到来、参加・体験型観光や個人・グループ型旅行などの観光スタイルの変化、団塊の世代が一斉に退職を向かえるいわゆる「2007年問題」などを受け、観光事業への期待が高まってきている。

また、平成18年度に新仙人峠道路、釜石公共埠頭、釜石港湾口防波堤がそれぞれ完成若しくは概成することに伴い、県内外からの来訪客の増加が見込まれる。

このような環境の変化に応じ、釜石市総合計画後期基本計画においては、市民や事業者とのパートナーシップにより「活力ある産業のまちづくり」や「にぎわいのあるまちづくり」、「快適な環境のまちづくり」に取り組み、「いきいき釜石・元気な釜石」を目指すこととしているが、観光関連施策についても次のような視点から展開する。

〈1．オール釜石で顧客のニーズに対応する〉

観光客のニーズが、見る、歩く、買う、食べる、集う、動く、憩うなど多様化しているため、従来の観光施設や形態だけでなく、産業や学術・文化、スポーツなどを総動員した「オール釜石」で顧客のニーズに対応すると同時に回遊性も高める。

〈2．固有の資源で独自性を発揮する〉

観光客の満足度を向上させながら訪れる人々を増やすためには、オンリーワンの商品を企画・造成する必要があるため、山・川・海の自然や食材、農山漁村の暮らしのほか、鉄の歴史などという固有の資源との出会いによって当市の独自性を発揮する。

〈3．ホスピタリティを高める〉

観光を進めるうえでは、おもてなしの心をもった観光ガイドやインタープリター、インストラクターの育成などのソフト面の充実も不可欠であることから、人材育成を通じてホスピタリティを高めながら、釜石市の観光のイメージを向上させる。

〈4．産業としての観光を確立する〉

観光の振興によって様々な地域経済への波及を促進しながら、グリーンツーリズムの取り組みをさらに発展させて交流から定住へ向かうなど、産業としての観光の位置付けをより確実なものとする。

ホスピタリティ……心のこもったもてなし。また、歓待の精神

インタープリター……通訳（者）、自然案内人

3 - 3 釜石市における観光振興の基本理念と目標

3 - 3 - 1 観光振興の基本理念

釜石市の観光振興を図るにあたって、次のことを基本理念とする。

【観光振興の基本理念】

市民がまちに強い誇りと愛着心を持ち、「かまいし」の素晴らしさを広く紹介しながらホスピタリティも高め、人々が集い・交わる観光のまちを目指します。

観光とは、そこに住む人々が魅力ある地域づくりに励み、その営みを通じて築かれる自治の力を、他の地域に誇らしく観てもらうことである、とされている。

どのように素晴らしい観光資源があっても、それを守り育もうとする気持ちがなければ、観光客は心からそれを楽しむことができないものであり、また、観て欲しいという心が情報発信能力にも表れ、観光客を引き寄せるものである。

このように、市民がこぞって郷土に誇りと愛着を持ち、そのことによって人々の出会いが生まれるまちをつくっていくことを基本理念とする。

3 - 3 - 2 観光振興の三つの目標

以上の基本理念に基づき、釜石市の観光振興の目標を次のとおりとする。

【観光振興の目標】

郷土愛と誇りを持った「かまいし人」を育てます

観光都市「かまいし」のイメージを浸透させます

120万人の交流人口をつくって定着へ向けます

釜石市の観光客数が低迷している理由としては、本市に観光地としてのイメージが薄く、交通網や観光関連団体の組織力が脆弱で、個々の観光資源も有効に利用していないため、結果として顧客のニーズに対応できなかったからである。

しかし、釜石市には、温泉やスキー場などはないものの、体験・学習型の観光資源は豊富にあり、これらを総動員して「観光都市かまいし」のイメージ定着させながら集客を図り、このことによって観光関連産業を振興させるとともに、当面は、交流人口120万人のまちを目指そうとするものである。

3 - 3 - 3 目標とする期間

【目標期間】

目標の達成に向けた計画期間は、平成 18 年度から 27 年度までの 10 カ年とする。
この計画期間は、釜石市総合計画とも連動することから、後期基本計画期間にあたる平成 22 年度までを前期、平成 27 年度までの 5 カ年間を後期とする。

3 - 3 - 4 観光振興に向けた五つの指針

目標の達成に向けて、指針を次のとおりとする。

【観光振興の指針】

- 1 . 様々な観光ニーズに対応するため、観光資源と推進組織を磨き上げながら、それぞれの結び付きも強めよう
- 2 . 観光を通じて、旅館やホテル、観光業などのサービス業だけでなく、農林業や水産漁業、商工業などの地域経済の裾野を広げよう
- 3 . 観光振興のソフト面でのインフラとなる推進体制を強化するとともに、観光の案内役を担う「観光人間」を育てよう
- 4 . 市民や事業者、行政の適切で明確な役割分担のもとに、それぞれが連携し、協働しながら観光の振興を進めよう
- 5 . 以上の行動を通じて「観光かまいし」の総合力を高め、地域全体のイメージを向上させよう

第4章 観光の振興に向けた五つの戦略


前章で述べた、釜石市の今後の観光振興の方向性を踏まえ、また、観光振興の目標の達成に向けて、行動指針に即した以下の五つの具体的な戦略を展開する。

戦略1 人材育成による”おでんせの心”の醸成

釜石市の観光資源を磨き、輝かせ、発信すると同時にホスピタリティーを高め、観光都市としてのイメージを浸透させるためには、観光に携る人材の育成が重要となってくる。

このため、観光に関わる人材の発掘と育成、強化を同時進行的に行うなど、専門知識やノウハウを持った人材の活用を積極的に進めて”観光人間”をつくり、「釜石へおでんせ」というおもてなしの心を醸成しながら観光振興によるまちづくりを進める。

【主要な施策】

 は重点施策

<p>観光に関連する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・観光ボランティアガイドの育成・観光に従事する人材研修の実施・インタープリターの設置・体験インストラクターやマネジメントリーダーの養成

観光ボランティアガイドについては、さらに多面にわたる観光資源別に対応ができるよう、関係団体や各種アドバイザー制度を利用して研修の機会を増やししながら、人員の増強とリーダーの育成を図る。

併せて、ホテルや観光施設、交通機関などの観光に関連する業務に従事する人材についても、おもてなしの心の養成講座などを実施するとともに、各種ツアーに参加してもらって観光資源の周知を図る。また、外国人旅行者にも対応できるよう、インタープリターを設置する。

加えて、岩手県グリーンツーリズム推進協議会や都市農山漁村交流活性化機構などの主催する各種講習会や研修会に参加し、グリーンツーリズムの体験インストラクターや、グリーンツーリズムの企画や実施を掌るマネジメントリーダーを養成する。

マネジメントリーダー……監督者

市民に対する観光資源の周知

- ・市民を対象とした各種ツアーの実施
- ・広報紙やマスメディアの積極的な利用

観光資源を広く外に向けて発信するためには、まず、市民が釜石市をよく理解していることが重要であることから、これまでも増して市民を対象としたツアーや見学会、登山会、歩け歩け運動などの企画を実施するとともに、広報紙やケーブルテレビ、新聞などを利用して、釜石市の観光資源を周知する。



図4 - 1 - 1 観光ボランティアガイドの活動と市民を対象としたツアー

学校教育との連携の強化

- ・子供たちや父兄を対象とした体験教室の拡大
- ・無料入館（乗船）プランなどの実施
- ・観光現場へのインターンシップの導入

小中学校における総合的な学習やPTA活動、親子教室などの学校における事業も視野に入れた各種企画を実施し、特に、市内の小中学生については公共的な観光施設の無料プランなども取り入れながら観光資源の周知を図る。

また、海浜清掃や各種イベント、観光施設における窓口対応などの機会を通じて観光資源を知るとともに労働の重要性を認識するため、中学生や高校生を対象としてインターンシップを導入する。

インターンシップ・・・学生が将来の職業に関連した就業体験をすること。

戦略2 海と食にこだわった観光の推進

国土交通省が、都市・地域住民を対象に行ったアンケートでは、釜石を連想するものとして、製鉄や鉱山の29.0%に次いで漁業や水産業が11.6%と多く、ラグビー(11.0%)、特になし(9.4%)、釜石大観音(9.0%)を挟んで海産物・魚介類が7.8%、海が4.0%、三陸海岸の2.4%など、海や食に関するものが約3分の1を占めている。

また、実際に食べたものの第1位が海鮮料理や魚介類などで最も多く、うに丼や海鮮丼、寿司、ホタテなどが続くとともに、満足度についても、大満足とやや満足と回答したものの比率が95%にも及び、海や食に対する嗜好の強いことが伺われる。

このため、従来の鉄の歴史や自然環境、史跡などの観光資源に加え、海や食などの素材にこだわった観光を推進し、顧客のニーズに応えていく必要がある。

【主要な施策】

釜石の食材を活かした新商品の開発

- ・釜石ならではの土産品の開発と既存商品のブランド化
- ・海の食材を活かした新たな商品の開発
- ・釜石ラーメンの定着
- ・農家や漁家レストランの開設

釜石市には、インパクトのある土産品が不足していることから、お菓子や農林水産品を中心とした特産品の開発と既存商品のブランド化を進める。また、海の食材を利用したオリジナルの商品開発を進め、チョウザメラーメンの開発にも取り組み、もともと評価の高い当市のラーメンに加えて「釜石ラーメン」として定着させる。

さらに、農家レストランや漁家レストランを開設し、通年での集客を図る。



図4-2-1 海鮮どんぶりとチョウザメラーメン

体験型観光の推進

- ・ A & F グリーン・ツーリズム実行委員会に対する支援の強化
- ・ 体験民泊の本格的な実施

A & F グリーン・ツーリズム実行委員会に対しては、当面、各種補助金や交付金などを活用して支援する。また、都市と農山漁村の共生・対流関係団体連絡会や岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会などとも連携しながら、情報交換、人材育成、受入体制づくりに努め、併せて、メニューの開発を行う。

また、農家民泊については、さらに参加する農家などの裾野を広げながら、修学旅行だけでなく、U・I・J ターン、団塊世代を対象とした就農などにも向ける。

味覚イベントやグルメツアーの実施

- ・ まるごと味覚フェスティバルの充実
- ・ 海の釜石味覚まつりの実施
- ・ 海や食をテーマとしたツアー、観光PRの実施

まるごと味覚フェスティバルを充実しながら継続実施するとともに、観光客が四季折々の新鮮な魚介類を始め加工品なども楽しむことができるよう、地域にある水産物の小売業者や水産加工業者も交えて、四季ごとに「海の釜石味覚まつり」を開催する。また、グルメツアーや観光船を利用したグルメ企画を実施し、これらについて盛岡圏や仙台圏にPRする。

飲食場所や土産品店の定着とPR

- ・ グルメタウンの推進
- ・ まちなか観光の推進
- ・ 呑ん兵衛横丁の活用

グルメタウン事業として、潮騒ラーメンや地魚おまかせ握りなどのお薦め料理のほか、地酒や地ビール、ミネラルウォーターなどを加えたPRを進める。また、釜石駅からサンフィッシュ釜石、魚河岸、あるいは観光船発着場の途中には、句や碑、公園のほか、ホテルや飲食店、海産物を取り扱う商店があることから、ここを歩くことで釜石の良さを発見できるよう「まちなか観光」を推進する。

呑ん兵衛横丁については、釜石を代表するナイトスポットであることから、とことこマップなどでの紹介以外に、具体的な活用を進める。



図4 - 2 - 2 呑ん兵衛横丁

シーフロントの活用

- 釜石魚市場移転後の跡地利用の検討
- 観光船発着場の検討

魚河岸地区の魚市場の移転と、その跡地への市場的な要素の施設も検討されていることから、移転の状況を勘案しながら、海のイメージを強調しつつ相乗効果が得られるよう、観光船の発着場の当該地区への移転も検討する。

戦略3 近隣地域や団体との連携の強化

団体旅行から個人・グループ旅行への変化や、旅行会社を経由しない旅行の増加などによって、旧来の点から点への観光が中心で地域を回遊させる視点が不足し、このことによって地域経済への波及が限定的、かつ顧客満足度の低下となって現れていたことの反省に立ち、今後は近隣他地域との連携を強化しなければならない。

具体的には、これまでの国立公園協会における観光コースの造成や釜石・遠野地方の観光と物産展などの行事に加えて、横手若しくは仙台、平泉、八幡平から花巻、遠野、釜石といった、とりわけ花巻～釜石の連携を強化した旅行商品の開発、物産交流の推進、研究事業の実施及び人的ネットワークを形成する。

【主要な施策】

友好・親善都市との交流

- ・東海市との交流の積極的な推進
- ・荒川区や米沢市との交流の推進
- ・横手市や花巻市、遠野市との交流の推進

東海市とは20年近くの物産交流があるが、同市との歴史的な背景からさらに交流を深める必要があり、姉妹都市の締結も視野に入れ、観光を始めふるさと回帰などにも対応できるようその対応を進める。

また、観光と物産を一体的なものとして捉え、物産交流を継続している荒川区を始め、横手市、花巻市などとの間で、遠野市や大槌町と連携して観光物産展を開催するほか、これらの物産交流を通じて観光や民間レベルにおける交流につなげていく。



図4-3-1 愛知万博「東海市の日」への釜石虎舞の派遣

広域的な観光プログラムの開発

陸中海岸国立公園協会と連携した新たな観光コースの造成に加えて、特に、遠野、花巻、横手の横軸については、それぞれの地域特性が異なることから、これを生かした広域的な観光プログラムを開発しながらそれぞれの誘客の促進に向ける。

縦軸及び横軸連携によるネットワークの形成

- ・ 陸中海岸国立公園協会やふるさと広域観光協議会との連携
- ・ 物産交流団体等との連携の強化

観光を振興させるにあたっては、近隣市町村や他団体との連携が不可欠であることから、陸中海岸国立公園協会やふるさと広域観光協議会、北東北地域連携軸構想推進協議会、三陸海岸塾などの関連団体のほかに、まるごと味覚フェスティバルやあったかメルヘン夢街道などを通じて交流関係のある自治体や個々の商店などとの連携を強化し、陸中海岸の縦軸、東北自動車道釜石・秋田線上の横軸との人的ネットワークを形成して、観光と物産の交流を推進する。

関連団体との連携の強化と研究組織への参画

- ・ 大槌町との連携
- ・ はいっえい人街ネットや遠野・釜石地域観光活性化研究会への参画
- ・ 釜石はまゆり会の活用

広域での観光や物産の振興については、これまでも岩手県観光協会や岩手県産業貿易振興協会のほか、各地の観光（物産）協会などの関連する団体の協力により、大槌町や遠野市とも連携しながら進めてきたが、今後は、国土交通省をはじめとする国の機関や東日本高速道路株などの道路関係団体、市外の拠点的な観光施設等とも調整を図り、あるべき観光の姿を研究していく。また、これらの団体等が行う観光に係る研究会にも積極的に関与するとともに、釜石はまゆり会についても、観光などに対する積極的な提言が見られることから、この活用を図る。

戦略4 迎客環境のブラッシュアップ

釜石市の観光施設は、決して豊富とはいえないものの、海や鉄、自然、歴史、物産などに因んだ特徴的な施設も多い。しかし、これらのリニューアルはもちろんのこと新たな観光施設の整備は、民間に対する補助制度も創設されたが厳しい状況にある。

したがって、これまでにあった個々の観光資源同士のつながりを深めたり、新たなスタイルの観光を模索し、それぞれをブラッシュアップしながら多様な観光客からのニーズに応えていく必要がある。

また、新仙人峠道路の開通を控え、三陸縦貫自動車道の計画も進むなど観光に関するインフラは整いつつあるが、これらに即応した形での交通システムや案内誘導システムは決して十分とは言えない。さらに、自然環境が豊かであるが、これらを維持しながら、良好な環境整備にも努めなければならない。

【主要な施策】

観光施設の整備及びリニューアル

観光客を受け入れながらさらに満足度を高めるためには、必要最低限の観光施設の整備も必要となる。また、公共施設についても、老朽化が進んでいることから計画的な改善措置も必要となってくる。

このため、グリーンツーリズムの屋外体験施設やオートキャンプ場の根浜地区への整備と、今後策定される橋野高炉跡保存管理計画を踏まえた青の木グリーンパークへのロッジの整備の検討、根浜海岸観光施設のリニューアルを年次計画で進める。



図4-4-2 体験上屋、オートキャンプ場、ロッジの整備の例

ブラッシュアップ…みがき上げること。また、一定のレベルに達した状態からさらにみがきをかけること。

大型バス駐車場やトイレ等の整備

- ・ 甲西地区への産直施設やトイレ・駐車場の整備
- ・ 東部地区におけるトイレや駐車場の整備

甲子地区への産直施設の整備が望まれており、これに併せて大型バス駐車場やトイレの整備も必要なことから、この検討を進める。また、まちなか観光を進めるに際して、駐車場やトイレの整備も必要であることから、甲子川大渡橋周辺に整備する。

交通システムの検討

観光施設が点在し定期観光バスも無い本市においては、乗合タクシーや鉄道、路線バスとの乗り継ぎ性も向上しなければ、観光客にとっての利便性が高まらないことから、これらの二次交通のシステムについて検討を進める。

多様な資源の活用

- ・ 地域固有のスポーツの活用
- ・ 農山漁村のストックの活用
- ・ 「産業観光」の推進
- ・ 自然、環境、史跡、戦争、津波などを素材としたツーリズムの実施

従来観光資源に加えて、全国的にも知名度のある釜石ラグビーを活用したり、各種のスポーツ大会やイベント、全県的な会議などを招致し、観光施設の優待券の発行などによって観光の振興につなげる。また、農山漁村における休耕田や空家などの情報をデータベース化し発信しながら、帰農や定住に向ける。

さらに、鉄の歴史や地酒、リサイクルなどの本市独自の企業の協力によって、新たに「産業観光」を推進する。同時に、リサイクル施設、自然エネルギー施設、環境保全活動、川遊びなどを交えたエコツーリズムや産業遺跡を巡るヘリテイジツーリズムのほか、戦争や津波に纏わる場所を巡るツーリズムなどを展開する。

観光施設の清掃や環境保全活動の実施

- ・ 観光施設周辺の清掃活動の実施
- ・ 海の環境塾や森・川・海環境保全活動の推進
- ・ 観光施設周辺の景観の形成

根浜海岸などの観光施設については、市民や企業、団体などの協力を得ながら定時に清掃活動を実施するとともに、ごみ処理についても、必要な場所にごみ箱を設置しながら、チラシなどを配布してごみの持ち帰り運動も実施する。そのほか、海の環境塾や植樹活動などの環境保全活動も積極的に推進する。

市内には、海や川、山、滝、巨木、水車小屋などの景観にマッチした資源が豊富にあることから、これらの保全や人為的な景観の形成などのほか、秘められた自然環境などを発掘し、新釜石八景とともにビューポイントとして設定してマップやパンフレットに掲載する。さらに、花いっぱい運動も実施しながら景観の向上を図る。

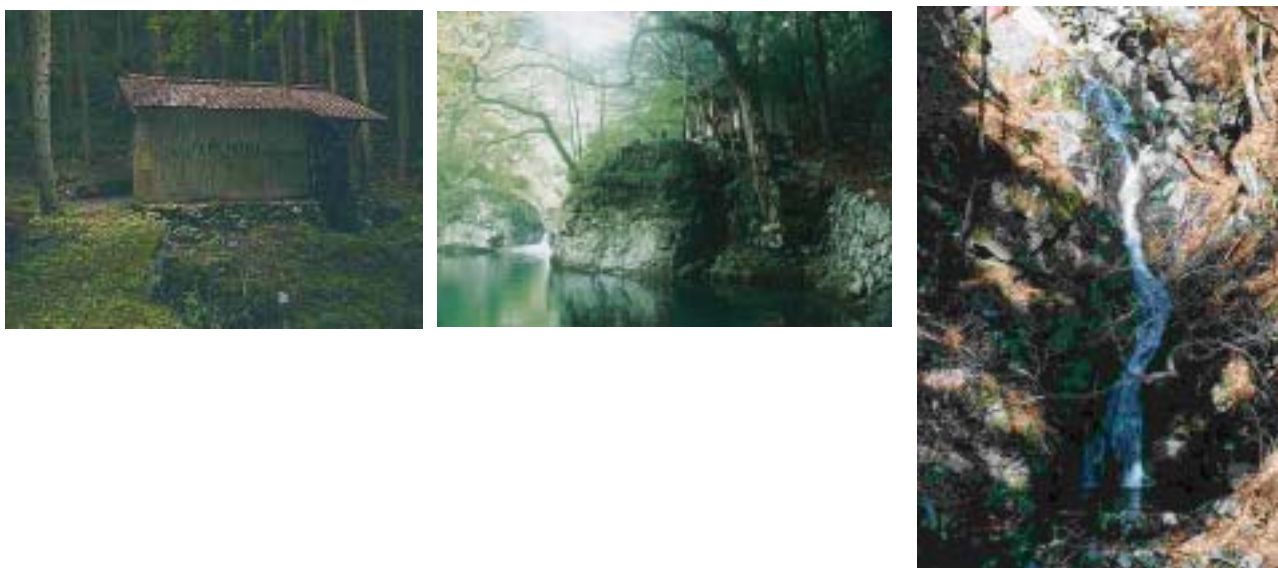


図4 - 4 - 1 茅沢水車場と瀧澤神社奥の院、布引の滝

安全な観光の推進

有事の際に対応するため、観光施設における津波避難訓練や防災訓練を実施するほか、外国人観光客にも分かるような統一デザインの津波避難場所や津波危険図記号の避難誘導サインを設置して、安全な観光を推進する。

なお、観光船については、有事における物資や罹災者の輸送船として、釜石市防災計画において位置付ける。

戦略5 観光関連情報の受発信

観光物産に関する情報は、これまで、ポスターやパンフレット、チラシなどを使い、また、市や観光協会のホームページを通じて行ってきたが、今後、多様な世代と階層、団体や個人に対して戦略的に、かつきめ細かに情報を発信する。

【主要な施策】

情報発信施設の整備

- ・総合映像発信施設の整備
- ・既存情報発信施設の活用

総合的な情報発信施設として、釜石物産センターに民間が行うマルチビジョンの設置を支援し、観光や物産のほか、気象、津波防災、スポーツなどの映像データを広く提供する。また、イベントなどにおいては、防災情報提供システムも活用する。

インターネットによる物産販売の拡大

はまゆりドットネットについては、メーリングリストを作成するなど顧客データを管理し、細やかにデータの更新を行いながら旬の情報を発信し、ネット上における取引量を拡大する。

観光や物産に関するデータの収集と保存

- ・写真や映像資料、観光施設のデータの収集と保存

観光や物産に係る写真資料や映像データを収集整理して、データベースとして保存し、必要な場合にはこれを開示する。

観光や物産のパンフレット・マップ等の整備

- ・パンフレットやマップ等の充実
- ・デジタルパンフレットの作成

観光や物産に係るパンフレットやマップなどを用途別に作成すると同時に、DVD版パンフレットを作成のうえ、観光PRや観光客誘致相談会、観光キャラバンなどにおいて活用する。

多言語によるパンフレットの作成

現在のパンフレットなどは全て日本語表記であることから、国際観光の推進に向けて多言語によるパンフレットを作成して、外国人観光客にも対応する。

景観に配慮した観光案内標識や誘導サインの設置

観光案内標識や誘導サインについては、関係者の協力を得ながら設置してきたが、設置場所によっては景観に配慮して小型化を進めるなど、さらに新增設を進める。

観光・宿泊案内機能の拡充

公共施設のほか、コンビニエンスストア、商店、産直施設の協力を得ながらパンフレットを置くなど、観光案内機能を拡充する。

第5章 釜石市観光振興ビジョンを推進するために

5 - 1 市民及び事業者の主導による観光の推進

観光や物産の振興に際しては、事業者、市民、行政の協働によって進めることを基本としながら、行政は観光協会を始めとする中間組織や観光事業者、市民の力を引き出し、組織をサポートしながら強化する役割を担い、そのうえで、中間組織や観光事業者は、市民と協力し合い、連携しながら独自の企画によってビジネスチャンスを拡大し、観光客にとっても魅力のあるまちづくりにつなげることとする。

5 - 1 - 1 事業者、市民、行政の責務

以下の、それぞれの主体別の責務によって、協働によるまちづくりと観光の振興を進める。

観光・物産事業者の責務

- ・業種の違いを乗り越えてスクラムを組み、観光物産の発展に取り組みます
- ・独自の商品企画して、他との差別化を図ります
- ・接客マナーを向上させて、お客様をもてなします

市民の責務

- ・釜石の歴史や文化、自然、物産などの資源を理解して、それを積極的にPRします
- ・清掃活動や町内の美化運動などに参加し、身の回りの観光環境を整えます
- ・地産地消を実践します

行政の責務

- ・あらゆる機会を捉えて、釜石を積極的にPRします
- ・釜石の持つ観光資源を積極的に活用します
- ・個々の事業者や団体を育成・支援します
- ・市民や事業者と協働できる場を設定していきます

5 - 2 観光や物産の推進体制の整備

5 - 2 - 1 中間組織の体制の強化

〈釜石観光協会〉

釜石観光協会に対しては、イベントによる活性化や新たな観光資源の発掘、人材の育成、観光をめぐる環境の整備などの、まちづくりのコーディネート機能も兼ね備えた組織となるような体制が求められている。

特に、会員の拡大と事務局体制の整備が喫緊の課題であり、ホームページや機関紙による情報発信、セミナーの開催による人材の育成と事業者への学習機会の提供、事業者同士のネットワークの形成、イベントの開催、観光の振興に向けたプログラムの作成、市民及び事業者の観光マインドの醸成など、観光の先導者として、また、協働によるまちづくりの面でも、スタッフのほか、組織や予算についても強化しなければならない。

〈旅館ホテル生活衛生同業者組合〉

旅館ホテル組合では、サンフィッシュ釜石内に観光案内を置くほか、各種イベントにも積極的に関与するなど、観光を推進するうえで重要な役割を担っているが、観光協会におけるホテル、旅館などの宿泊案内機能も含めた業務の一部とともに見直ししながら、一体的に観光を推進することによって経費の節減とサービスの向上が期待される。

〈釜石・大槌地区物産振興協会〉

物産振興協会は、産業まつりや市外での物産展への出店、特産品の開発、各種支援制度の周知などを行っているが、物産展については主に観光イベントとして取り組まれており、見直しが求められている市の業務代行とともに検討段階にきていることから、観光協会の業務とともに見直しが必要と考えられる。

〈観光施設、商業施設及び交通機関〉

観光協会等の中間組織の体制が強化されたうえにおいては、観光施設や商業施設、交通機関などの観光マインドが高まっていないと思われる関連事業者に対しての情報提供や研修事業などを展開し、観光の振興に対する意識を喚起していく。特に、事業者や交通機関に対しては、観光客の楽しみの一つとしてショッピングやグルメが挙げられることから、二次交通の面で不十分な実態も踏まえて、連携を強めることとする。

《その他の団体》

A & F グリーンツーリズム実行委員会や観光ボランティアガイドセンターについても、NPO法人化なども視野に入れた組織体制の強化が必要である。そのほか、グリーンツーリズムの支援やコミュニティビジネスを志向する団体についても支援が必要となってくる。加えて、指定管理者制度に基づく管理を行っている鉄の歴史館や物産センターについても、依然として入館者数が減少していることに鑑み、指導を継続していかなければならない。

表5 - 1 - 1 行政と民間、関連団体との業務分担の例

民間団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・祭やイベントの実施 ・グリーンツーリズムの推進 ・物産センターの管理 ・鉄の歴史館の管理 ・根浜海岸観光施設の管理 ・特産品の開発や販売促進 ・物産展への出店
中間組織 (観光協会等)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光PRと観光客誘致促進 ・大規模活性化イベントの企画・運営 ・関連団体の支援・調整 ・観光パンフレットの作成 ・観光・物産関連情報の収集と発信 ・観光トイレや駐車場の設置と管理
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・行政財産や普通財産の管理 ・観光統計の収集

5 - 2 - 2 行政における推進体制

1) 観光協会に対する人的支援

観光協会に関連団体の事務的な機能を集約するとともに、事務局長を置いたとしても、各種企画に直接従事する職員がいなければ実態として従前のままとってしまう可能性がある。このため、市の業務と、本来観光協会が果たすべき役割の分担を明確にしたうえで、観光協会の業務の執行に市の職員をあたらせるなどの人的支援を行う必要が出てくる。

2) 全庁的な協力体制

本ビジョンでは、終局的な観光客の目標 120 万人と設定することとしているが、例えば各種会議を誘致するにあたっては、全庁的な取り組みと観光や物産を意識した誘致の手法の検討が求められる。また、スポーツ大会については教育委員会、観光資源としての緑地、公園、河川、神社、仏閣、港湾施設などについてもそれぞれの部局が所掌し、農林や水産についても観光に深く関わってくる。さらに、交流から定住を目指すうえでも労政施策の展開が必要であり、道路、交通、環境、景観、自然保護、都市計画など多岐にわたる部門においても、それぞれ観光マインドを高めなければならない。

このため、全庁的な協力体制を敷くことはもちろんであるが、観光政策をプロモーションするエキスパートも必要となってくる。

第6章 戦略別行動計画

重点施策	前期	後期	今後の取り組み
戦略1 人材育成による”おでんせ”の心の醸成			
観光ボランティアの育成	→		観光ボランティアセンターの運営強化
観光に従事する人材研修	→		観光施設での研修と講演会の実施
インタープリターの設置	→		観光協会の活動支援
インストラクターやマゼンタリダー育成		→	A&Fグリーンツーリズム実行委員会の育成
戦略2 海と食にこだわった観光の推進			
土産品の開発と商品ブランド化	→		物産関連団体の活動支援
海の食材を活かした商品開発	→		物産関連団体の活動支援
釜石ラーメンの定着	→		イベントでの屋台村、ラーメンマップの作成
農家・漁家レストランの開設	→		関連団体の活動支援
グリーンツーリズムの支援		→	交付金等を利用した助成
体験民泊の本格的な実施	→		関連団体の活動支援
戦略3 近隣地域や団体との連携の強化			
東海市との交流の推進		→	当面、姉妹都市締結に向けて検討
荒川区や米沢市との交流		→	物産展等の継続開催
横手市や花巻市などとの交流		→	北東北連携軸、北緯40度Bライン活用
広域的な観光プログラム開発	→		遠野、花巻市との連携
戦略4 迎客環境のブラッシュアップ			
観光施設の整備とリニューアル		→	年次計画による整備を検討
戦略5 観光関連情報の受発信			
総合映像情報施設の整備	→		観光・物産等の情報発信施設の設置
既存情報発信施設の活用		→	防災情報提供システム等の利用
インターネットによる物産販売拡大		→	釜石特産店の支援

推進体制の整備			
中間組織体制の強化	→		関係団体の窓口一体化 観光協会事務局長の配置
観光協会に対する人的支援	→		職員の派遣と事務の移譲
市の全庁的な協力体制の確立	→		組織機構及び分掌事務の見直し

= 資料編 =

釜石市観光審議会委員名簿

平成 18 年 3 月 28 日

委員氏名	団体・役職名等	備 考
佐々木 国 男	A&F グリーンツーリズム実行委員会 会長	
杉 本 春 夫	釜石観光ボランティアガイド	
千 葉 まき子	観光業	
寺 田 守	釜石観光協会 会長	
新 里 進	釜石・大槌地区物産振興協会 会長	
平 松 正 雄	岩手県旅館ホテル環境衛生同業組合釜石支部 支部長	
藤 江 牧 子	岩手日報社釜石支局 記者	
藤 田 佳 正	釜石市商店会連合会 会長	
松 岡 徳 雄	東日本旅客鉄道(株) 釜石線営業所 所長	
和 田 竹 美	技術翻訳業	

五十音順

【オブザーバー】

岩手県釜石地方振興局企画総務部企画振興課

釜石商工会議所総務課

ビジョン内グラフの基礎データ

国民1人あたり平均宿泊旅行回数及び宿泊数（単位：回、泊）

区 分		12年	13年	14年	15年	16年
年間 宿泊 旅行 回数	観 光	1.32	1.29	1.26	1.16	1.06
	兼観光	0.19	0.13	0.15	0.12	0.12
	家事・帰省	0.50	0.49	0.63	0.46	0.44
	業 務	0.40	0.25	0.30	0.26	0.29
	その他	0.15	0.14	0.15	0.11	0.09
	宿泊旅行回数計	2.56	2.30	2.49	2.11	2.00
	宿泊旅行観光 (観光+兼観光)	1.52 (98)	1.42 (93)	1.41 (99)	1.28 (91)	1.18 (92)
年間 宿泊 数	観 光	2.03	1.92	1.85	1.69	1.67
	兼観光	0.44	0.31	0.40	0.31	0.25
	家事・帰省	1.29	1.30	1.52	1.13	0.97
	業 務	1.24	0.53	0.72	0.70	0.62
	その他	0.19	0.23	0.17	0.13	0.10
	宿泊旅行回数計	5.18	4.30	4.65	3.96	3.61
	宿泊旅行観光 (観光+兼観光)	2.49 (94)	2.23 (90)	2.24 (100)	2.01 (90)	1.92 (96)

出典：平成17年版観光白書 総務省

宿泊観光の主な目的の推移（単位：％）

区 分	2年	8年	11年	12年	13年
自然・名所・スポーツ見学や行楽	21.8	24.9	22.8	24.3	24.0
温泉に入る・湯治	12.2	15.8	18.6	18.8	19.8
スポーツ・レクリエーション	21.2	20.5	15.9	14.2	16.5
慰安旅行	24.0	20.5	20.9	19.0	16.0
趣味・研究	2.5	4.2	3.1	3.6	3.7
祭・イベント	2.5	0.2	1.2	4.0	3.3
避暑・避寒以外の保養・休養	2.4	3.2	3.0	2.9	2.8
神仏詣	3.0	2.3	2.8	2.5	2.5
避暑・避寒	1.6	1.4	1.4	1.5	2.3
旅先での出会いや交流	1.9	1.2	1.2	1.7	1.2

出典：平成14年版観光の実態と志向 日本観光協会

宿泊観光旅行の同行者の推移（単位：％）

区 分	2年	8年	11年	12年	13年
家族	28.5	34.5	41.8	36.4	43.8
知人・友人	31.0	31.2	27.3	31.2	24.6
家族と友人・知人	12.5	12.2	11.5	11.5	13.7
職場・学校の団体	15.5	10.9	9.0	8.8	6.7
地域・宗教・招待などの団体	4.0	4.3	3.5	4.4	3.1
自分ひとり	2.5	3.2	2.2	2.7	2.8
その他	6.0	3.8	4.7	5.0	5.2

出典：平成14年版観光の実態と志向 日本観光協会

観光客入込み数及び観光消費額推計表

区 分	観光客入込み数						観光消費額		
	県内客		県外客		計		県内での 1人あたり 消費額	県内での 消費額計	前年比
		前年比		前年比		前年比			
昭和40年	千人 4,465	%	千人 2,592	%	千人 7,057	%	円 1,224	百万円 8,639	%
45年	6,045	3.7	5,175	13.4	11,220	8	1,646	18,469	16.2
50年	9,823	9.2	8,472	8.2	18,295	8.7	3,200	58,544	36.8
55年	11,437	11.9	10,295	0.7	21,732	6.9	4,967	107,944	12
60年	16,232	5.6	15,006	9.4	31,328	7.4	6,721	209,955	2.6
平成2年	18,645	0.8	17,961	6.6	35,606	3.6	7,304	267,388	5.8
7年	20,897	4.6	18,466	5.4	39,364	5.0	9,917	390,356	12.3
12年	22,096	2.4	16,975	1.8	39,071	2.2	8,904	345,121	4.8
13年	22,607	2.3	16,648	1.9	39,225	0.5	10,938	420,466	21.5
14年	22,125	2.1	16,586	0.4	38,711	1.4	8,569	327,502	22.1
15年	22,032	0.4	16,092	3.0	38,124	1.5	8,311	314,394	4.0
16年	22,702	3.0	16,461	2.3	39,164	2.7	6,050	238,728	24.1

出典：平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

四半期別外国人観光客入込み推計表（単位：人）

区 分		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合 計	構成比
北 ・ 南 米	アメリカ	572	861	740	713	2,886	3.7
	カナダ	19	19	44	27	109	0.1
	メキシコ	4	4	5	1	14	0.1
	その他	4	48	82	55	189	0.2
ヨ ー ロ ッ パ	イギリス	34	95	209	75	413	0.5
	フランス	4	34	92	16	146	0.2
	ドイツ	234	39	112	170	555	0.7
	イタリア	21	93	59	3	176	0.2
	オランダ	2	16	23	2	43	0.1
	スイス	6	18	36	10	70	0.1
	スウェーデン	19	2	3	7	31	0.1
	旧ソ連	10	72	49	330	461	0.6
	その他	60	94	264	108	526	0.6
ア ジ ア	中国	353	623	568	666	2,210	2.8
	台湾	8,579	11,188	9,702	21,974	51,443	65.7
	香港	863	1,551	3,608	3,017	9,039	11.6
	韓国	620	889	1,337	621	3,467	4.4
	フィリピン	47	120	50	84	301	0.4
	タイ	30	189	46	67	332	0.4
	インドネシア	49	96	30	158	333	0.4
	マレーシア	11	7	20	50	88	0.1
	インド	13	2	4	4	23	0.1
その他	368	196	156	233	953	1.2	
そ の 他	オーストラリア	21	42	73	69	205	0.3
	その他	51	238	29	353	353	0.4
	アフリカ	2	40	43	12	97	0.1
計		12,403	17,548	18,428	29,914	78,293	100.0

出典：平成16年版岩手県観光統計概要 岩手県観光協会

観光地別入込み客数及び県内・県外別入込み客数の推移（単位：人）

区分	鎌崎 (大観音)	根浜海岸	荒川海岸	その他の 海岸	五葉山	その他	県内	県外	総数
昭和49年	159,468	104,197			12,476	55,000	240,372	90,769	331,141
50年	187,598	171,570			11,428	78,000	326,766	121,830	448,596
51年	221,535	107,165			9,620	56,590	287,168	107,742	394,910
52年	253,696	113,800		16,550	8,275	62,995	330,346	124,970	455,316
53年	210,591	172,071		46,450	10,430	87,390	401,693	125,239	526,932
54年	241,380	129,930		48,200	11,520	74,150	383,535	121,645	505,180
55年	177,790	59,830	24,180	19,008	6,690	45,447	261,954	70,991	332,945
56年	194,086	83,850	43,150	29,457	4,750	147,066	412,360	89,999	502,359
57年	277,591	42,930	25,330	114,622	7,902	170,178	525,564	112,989	638,553
58年	202,783	52,322	35,650	33,830	6,588	257,845	502,375	86,643	589,018
59年	292,887	92,265	50,620	104,800	4,920	191,648	607,817	129,323	737,140
60年	271,342	89,271	42,916	118,435	5,534	254,975	654,108	128,365	782,473
61年	293,076	81,984	40,107	125,952	9,030	266,150	667,448	148,851	816,299
62年	270,014	80,815	31,100	92,059	9,741	275,109	634,597	124,241	758,838
63年	257,005	99,153	25,415	72,835	12,840	234,606	522,059	179,795	701,854
平成元年	275,895	324,389	30,410	93,889	15,435	308,138	760,368	287,788	1,048,156
2年	263,671	175,617	33,480	104,686	15,756	333,940	540,729	386,421	927,150
3年	298,734	189,948	31,846	125,805	13,209	415,006	638,810	435,736	1,074,548
4年	263,726	96,489	29,043	66,871	23,700	1,842,059	1,413,482	908,406	2,321,888
5年	204,328	72,902	25,301	57,122	14,570	556,131	567,178	363,176	930,354
6年	199,798	174,106	64,809	112,210	27,720	652,934	722,333	499,244	1,231,577
7年	197,456	154,360	52,871	98,430	27,766	669,168	667,870	532,181	1,200,051
8年	180,942	163,815	55,713	95,199	29,140	781,687	721,808	584,688	1,306,496
9年	169,204	156,099	50,657	86,325	27,485	854,681	766,514	577,937	1,344,451
10年	110,686	95,000	30,655	58,173	28,495	768,361	641,376	449,994	1,091,370
11年	128,805	157,289	51,236	77,775	28,800	790,869	764,141	470,633	1,234,774
12年	121,798	121,577	38,400	62,333	28,775	734,428	722,228	385,083	1,107,311
13年	132,450	74,224	20,808	44,188	23,806	682,399	665,925	311,950	977,875
14年	125,629	87,087	21,535	44,604	21,775	630,134	626,805	303,959	930,764
15年	114,976	68,790	16,389	32,858	22,200	636,870	626,805	303,959	892,083
16年	117,480	91,751	22,279	39,085	22,657	606,253	665,925	311,950	899,505
17年	93,879	79,187	18,994	34,476	21,523	563,026	626,805	303,959	811,085

出典：観光レクリエーション客入込み状況年表 釜石市